

2016(平成28)年度

FD報告書



京都ノートルダム女子大学



はじめに

平成28年度は委員交代の年度であり、FD委員会も新メンバーでのスタートとなりました。新体制での活動にあたり、改めて本学のFD活動について、FD委員会規程を確認すると、本委員会の目的は、「建学の理念及び教育目標に基づき、教員の資質向上と教育研究活動の充実・発展の推進（第2条）」であり、その業務はFD活動に関しての、(1)企画立案、(2)実施計画の策定と評価、(3)報告、(4)情報収集と提供、(5)関係団体との連携等、とされています（第3条）。

本委員会は、上記の考えに沿ってFD活動を具体化してゆくこととなりますが、まずは(1)の企画立案に関わる活動として、一年間の活動の概要を年初に決定し、これに沿って(2)～(5)の活動の詳細を毎月開催される委員会において審議・決定して参りました。今年度については、年初の委員会において“前年度の活動を継承しながら、改善すべき点や発展可能性について検討して行く”という方針が決定されました。そこで、この決定に沿って次のような事業を企画し、実施いたしました。

1. 学部生による授業評価アンケートを前期と後期に、大学院生による教育評価アンケートを後期に実施しました。また、アンケートの結果を教員に伝え、教員は受講生に向けたフィードバックを行い、この内容を学内で共有しました。
2. 年間4回、講演や実習等を含めた研修会を学内で実施しました（うち、1回は全学研修会）。前年度に準じた複数回の開催により、教職員の学ぶ機会を確保するようにしました。
3. オープンクラスは、原則、全ての学部授業を公開とし、前期2週間・後期3週間をオープンクラス・ウィークとして、教職員や学生が自由に授業を参観できる機会を準備しました。また、参観者からのコメントを被参観の教員にフィードバックすることで、授業改善の一助となるようにしました。
4. 外部講演会や研修会等についての情報提供を折々に行い、教職員への啓発活動を行いました。また、本学は公益財団法人 大学コンソーシアム京都の加盟校であることから、第22回のFDフォーラム「大学の教育力を発信する～教養教育改革と現代社会～」にも積極的に関与してきました。今年度も、FD委員会委員が一分科会「教育の多様化の中の女子大学という選択」をコーディネートして、全国に向けたFD活動の普及や情報発信、関係機関との交流・連携の機会を持ちました。

以上の活動についての詳細と振り返りを本報告書としてまとめました。掲載されている様々なデータから、本学の教育活動の現状を読み取ることができます。また、FD委員が執筆を担当した部分では、今後の課題についても言及しています。ご一読を賜り、本学の教育・研究の更なる発展と向上に役立てていただけるよう、お願いを申し上げます。新しい機器やシステムの導入、昨今の学生気質の変化等の教育・研究環境の変化にも対応しつつ、

教職員一同が継続的にFD活動に取り組んで行けるよう、FD委員会は今後も様々な業務を推進して行きたいと考えています。

2017（平成29）年3月

京都ノートルダム女子大学
FD委員会委員長 向山泰代

目 次

はじめに	1
I 2016（平成 28）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告	5
1. 実施目的	5
2. 実施方法	5
3. 集計結果	
(1) 【全学部】	9
1) 全学部	11
(2) 【授業形態別】	13
1) 講義	14
2) 演習	16
3) 実習	18
4) 卒業研究	20
(3) 【開講所属別】	23
1) 共通教育科目	24
2) 資格関係	26
3) 人間文化学部共通科目	28
4) 英語英文学科専門教育科目	30
5) 人間文化学科専門教育科目	32
6) 生活福祉文化学部専門教育科目	34
7) 心理学部専門教育科目	36
4. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	39
資料 2016（平成 28）年度 学生による授業評価アンケート 調査用紙	40
II 2016（平成 28）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告	44
1. 実施目的	44
2. 実施方法	44
3. 集計結果	
(1) 【全研究科】	47
(2) 【研究科・専攻別】	51
1) 人間文化研究科	52
2) 人間文化研究科 人間文化専攻	53
3) 人間文化研究科 生活福祉文化専攻	54
4) 心理学研究科	55
5) 心理学研究科 発達・学校心理学専攻	56
6) 心理学研究科 臨床心理学専攻	57
4. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	59
資料 2016（平成 28）年度 大学院生による教育評価アンケート 調査用紙	60
III 2016（平成 28）年度「FD 研修会」実施報告	61
1. 実施概要	61
2. 現状と今後の課題	62

IV	2016（平成 28）年度「オープンクラス」実施報告	64
	1. 実施概要	64
	2. 現状と今後の課題	64
V	2016（平成 28）年度「全学 FD 教員研修会」実施報告	66
	1. 実施概要	66
	2. 現状と今後の課題	66
	FD 委員会構成員	68

I 2016（平成 28）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

「学生による授業評価アンケート」は、本学の教育内容や教育方法等の課題を明確にし、質的な向上を図ることを目的に、2008（平成 20）年度から継続的に実施している。

集計結果が出たのち、教員はそれを踏まえて担当授業について自己評価をおこない、結果についての所見、改善に向けた今後の取り組みについて学生へフィードバックを行った。

2. 実施方法

1) 実施期間

前期は、2016（平成 28）年 6 月 29 日（水）～7 月 27 日（水）、後期は、2016（平成 28）年 12 月 9 日（金）～2017（平成 29）年 1 月 27 日（金）に実施した。なお、一部の集中科目等については、開講期間中に実施した。

2) 対象科目・対象者

対象科目：2016（平成 28）年度開講の学部全科目（一部の学外実習科目等を除く）

対象者：全学部の学生

3) 実施科目数・回収率

開講所属ごとの実施状況は下のとおりである。

学部・学科名等	対象科目数 (a)	実施科目数 (b)	実施しなかった科目 (a-b)	実施率	実施科目 回収状況		
					履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	222	221	1	99.5 %	7,707	6,052	78.5 %
資格関係	51	49	2	96.1 %	964	775	80.4 %
人間文化学部共通科目	2	1	1	50.0 %	13	7	53.8 %
英語英文学科専門教育科目	237	224	13	94.5 %	4,450	3,459	77.7 %
人間文化学科専門教育科目	121	120	1	99.2 %	2,191	1,677	76.5 %
生活福祉文化学部専門教育科目	216	211	5	97.7 %	3,744	3,176	84.8 %
心理学部専門教育科目	152	144	8	94.7 %	5,026	3,883	77.3 %
計	1,001	970	31	96.9 %	24,095	19,029	79.0 %

4) 調査内容 (学部)

最初に、回答者の属性 (学年・所属学部 (学科)) を尋ね、次に当該科目に関して「授業の状況」「学習の状況」「学習成果 (社会人基礎力)」「授業形態項目」「独自設定項目」について尋ねた。設問数は、選択式 19 問 自由記述 2 問である。

「授業形態項目」は、授業形態 (講義、演習、実習、卒業研究) によって設問が異なる。調査項目は、2015 (平成 27) 年度と同様である。

調査項目の一覧は以下のとおりである。

授業評価アンケート調査項目と回答形式

(1) 調査項目

授業の状況

- (1) 授業はシラバス (目標・内容・方法など) に沿った内容であった
- (2) 授業中に使う教材 (テキスト・配布資料など) は適切であった
- (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた
- (4) 教員の話し方は、わかりやすかった
- (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた
- (6) 授業は興味関心の持てる内容であった
- (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった

学習の状況

- (8) 授業の内容は理解できた
- (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった
- (10) この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学習しましたか
〔5(2 時間以上)、4(1~2 時間未満)、3(30 分~1 時間未満)、2(30 分未満)、1(0 時間)〕

学習成果 (社会人基礎力)

- (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した
- (12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した
- (13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した
- (14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した
- (15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した
- (16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した

授業形態項目 (講義)

- (17) 教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた
- (18) 黒板の字や視聴覚教材 (パワーポイントなど) は見やすかった
- (19) 授業の進むペースは適切であった

授業形態項目 (演習)

- (17) 発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった
- (18) 教員とコミュニケーションがとれた
- (19) 授業中に質問や発言を積極的にした

授業形態項目 (実習)

- (17) 実習はやりがいがあった
- (18) 授業中に質問や発言を積極的にした

(19) TA などのサポートが役に立った

授業形態項目（卒業研究）

(17) 卒業研究の作成過程・出来栄えに満足している

(18) 指導教員から適切な指導を受けた

(19) 卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった

独自設定項目

(20) 担当教員が、独自に設定した項目

記述式項目

- ・この科目（授業）について「よかった点」を記入してください。（自由記述）
- ・この科目（授業）について「改善すべき点」を記入してください。（自由記述）

(2) 回答形式

評価項目(1)～(9)、(11)～(20)については、以下の選択肢から回答させた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない
- 0：該当しない

5) 実施手順（学部）

授業評価アンケートの調査票は、学事課および研究・情報推進課より教員に配付した。各科目の担当教員は、学生に対しアンケートの主旨を説明した上で調査票を配付した。回答済みの調査票は、担当教員が指名した学生の代表が回収し、学事課へ提出した。

例外的な取り扱いをした科目は以下のとおり。

- ・「ノートルダム学Ⅲ」と「卒業研究」は、「ノートルダム学Ⅲ」の授業において（12月9日、12月16日）、学事課の職員が調査票を学生に配付し回収した。

6) 結果の集計

調査票の印刷・封入作業および集計処理は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

7) 集計結果の教員への通知

科目別集計結果は、前期実施分は2016（平成28）年9月中旬に担当教員に配付した。後期に担当授業のない非常勤講師については郵送にて配付した。

後期実施分は、専任教員には2017（平成29）年3月に配付し、非常勤講師については郵送にて配付した。

8) 集計結果の学内への公表

全学部授業のアンケート集計結果（自由記述を除く）は学事課及び研究・情報推進課にて教職員および学生の閲覧に付した。また、学内 Web にも掲載した。

なお、集計結果を受けた教員によるフィードバックの内容は、2013（平成25）年度より学内 Web にて公開している。

「学生による授業評価アンケート」

3.集計結果

(1) 【全学部】

■集計区分全体

履修者数	24,095	全科目数	1,001
回答者数	19,029	実施科目数	970

■学年

1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生		その他		計
7,051	37.6%	4,896	26.1%	4,840	25.8%	1,962	10.5%	9	0.0%	14	0.1%	18,772

■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生		その他		計
4,595	24.6%	3,016	16.2%	4,828	25.9%	6,208	33.3%	7	0.0%	8	0.0%	18,662

※Q10以外 5:そう思う 4:どちらかと言えばそう思う 3:どちらとも言えない 2:どちらかと言えばそう思わない 1:そう思わない 0:該当しない

※Q10 5:2時間以上 4:1~2時間未満 3:30分~1時間未満 2:30分未満 1:0時間

【授業の状況】

No.	設問文	全体 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	10,610 56.0%	6,451 34.0%	1,605 8.5%	139 0.7%	94 0.5%	53 0.3%	18,952	77	0.722
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	10,433 55.0%	6,298 33.2%	1,705 9.0%	295 1.6%	141 0.7%	80 0.4%	18,952	77	0.778
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	9,534 50.4%	6,290 33.2%	2,383 12.6%	416 2.2%	241 1.3%	66 0.3%	18,930	99	0.864
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	9,810 51.8%	5,992 31.7%	2,155 11.4%	562 3.0%	372 2.0%	41 0.2%	18,932	97	0.921
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.2	9,343 49.4%	6,194 32.7%	2,389 12.6%	602 3.2%	354 1.9%	45 0.2%	18,927	102	0.925
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	9,131 48.3%	6,156 32.5%	2,491 13.2%	635 3.4%	461 2.4%	43 0.2%	18,917	112	0.962
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.5	11,223 59.4%	5,674 30.0%	1,560 8.3%	262 1.4%	138 0.7%	32 0.2%	18,889	140	0.765

【学習の状況】

No.	設問文	全体 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	8,343 44.2%	6,930 36.7%	2,591 13.7%	631 3.3%	349 1.8%	51 0.3%	18,895	134	0.921
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	11,490 61.0%	4,406 23.4%	2,038 10.8%	508 2.7%	325 1.7%	81 0.4%	18,848	181	0.909
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	1,910 10.2%	2,666 14.2%	4,065 21.6%	4,289 22.8%	5,299 28.2%	563 3.0%	18,792	237	1.323

【学習成果(社会人基礎力)】

No.	設問文	全体 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	6,682 35.3%	6,598 34.9%	4,468 23.6%	516 2.7%	388 2.1%	256 1.4%	18,908	121	0.946
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	6,003 31.7%	6,147 32.5%	5,066 26.8%	776 4.1%	513 2.7%	403 2.1%	18,908	121	1.001
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	6,052 32.0%	5,872 31.1%	5,102 27.0%	875 4.6%	587 3.1%	407 2.2%	18,895	134	1.029
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	6,207 32.9%	6,568 34.8%	4,716 25.0%	647 3.4%	439 2.3%	307 1.6%	18,884	145	0.968
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	6,915 36.6%	6,790 35.9%	4,103 21.7%	479 2.5%	374 2.0%	229 1.2%	18,890	139	0.934
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	5,934 31.5%	6,210 32.9%	5,178 27.5%	716 3.8%	470 2.5%	355 1.9%	18,863	166	0.985

「学生による授業評価アンケート」

3.集計結果

(2) 【授業形態別】

■授業形態

授業形態名		履修者数	15,604	全科目数	482
講義		回答者数	12,202	実施科目数	471

■学年

1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生		その他		計
4,207	35.0%	3,372	28.0%	3,184	26.5%	1,253	10.4%	4	0.0%	7	0.1%	12,027

■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生		その他		計
2,970	24.9%	1,985	16.6%	3,030	25.4%	3,951	33.1%	4	0.0%	7	0.1%	11,947

※Q10以外 5:そう思う 4:どちらかと言えばそう思う 3:どちらとも言えない 2:どちらかと言えばそう思わない 1:そう思わない 0:該当しない

※Q10 5:2時間以上 4:1~2時間未満 3:30分~1時間未満 2:30分未満 1:0時間

【授業の状況】

No.	設問文	全体 平均点	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	4.4	6,664	4,200	1,097	102	61	29	12,153	49	0.732
				54.8%	34.6%	9.0%	0.8%	0.5%	0.2%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	4.4	6,520	4,121	1,173	201	101	38	12,154	48	0.793
				53.6%	33.9%	9.7%	1.7%	0.8%	0.3%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	4.3	6,080	4,042	1,535	281	159	39	12,136	66	0.870
				50.1%	33.3%	12.6%	2.3%	1.3%	0.3%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	4.3	6,095	3,889	1,479	403	250	23	12,139	63	0.938
				50.2%	32.0%	12.2%	3.3%	2.1%	0.2%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.2	4.2	5,697	4,060	1,690	431	234	25	12,137	65	0.941
				46.9%	33.5%	13.9%	3.6%	1.9%	0.2%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	4.2	5,729	3,964	1,644	447	323	27	12,134	68	0.981
				47.2%	32.7%	13.5%	3.7%	2.7%	0.2%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.5	4.4	7,046	3,701	1,065	187	97	16	12,112	90	0.782
				58.2%	30.6%	8.8%	1.5%	0.8%	0.1%			

【学習の状況】

No.	設問文	全体 平均点	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	4.1	5,120	4,488	1,782	444	244	30	12,108	94	0.938
				42.3%	37.1%	14.7%	3.7%	2.0%	0.2%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	4.4	7,199	2,931	1,362	334	206	46	12,078	124	0.913
				59.6%	24.3%	11.3%	2.8%	1.7%	0.4%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	2.4	1,038	1,488	2,481	2,850	3,810	376	12,043	159	1.298
				8.6%	12.4%	20.6%	23.7%	31.6%	3.1%			

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体 平均点	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	4.0	4,021	4,226	3,059	372	251	190	12,119	83	0.952
				33.2%	34.9%	25.2%	3.1%	2.1%	1.6%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	3.8	3,514	3,904	3,492	569	347	296	12,122	80	1.008
				29.0%	32.2%	28.8%	4.7%	2.9%	2.4%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	3.8	3,449	3,690	3,610	634	415	311	12,109	93	1.039
				28.5%	30.5%	29.8%	5.2%	3.4%	2.6%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	3.9	3,742	4,218	3,170	451	296	227	12,104	98	0.973
				30.9%	34.8%	26.2%	3.7%	2.4%	1.9%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	4.0	4,177	4,391	2,783	326	258	170	12,105	97	0.942
				34.5%	36.3%	23.0%	2.7%	2.1%	1.4%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	3.8	3,477	3,909	3,570	526	328	270	12,080	122	0.996
				28.8%	32.4%	29.6%	4.4%	2.7%	2.2%			

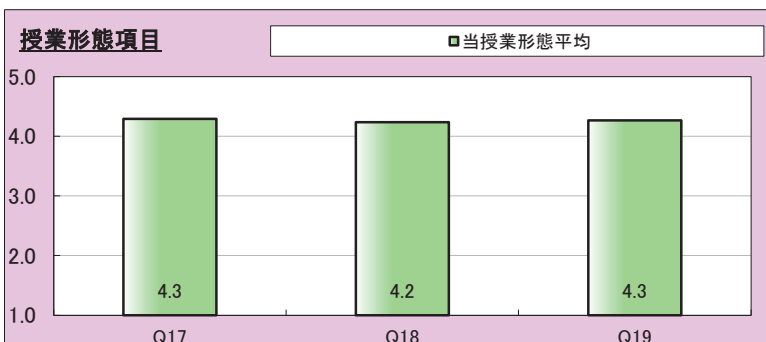
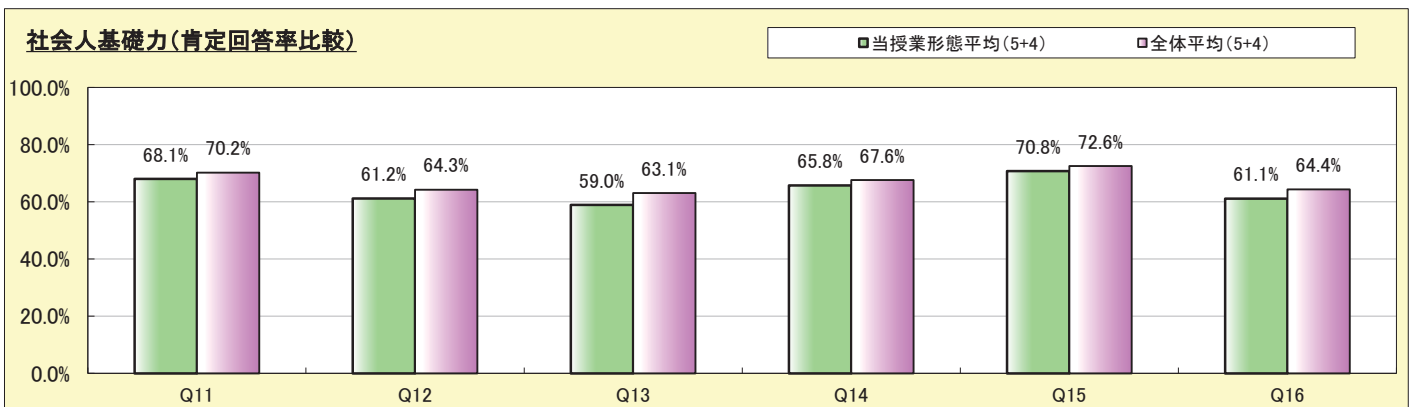
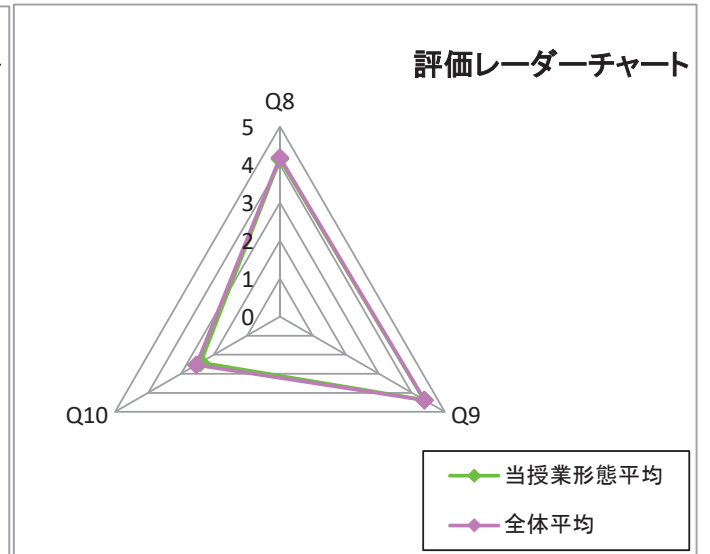
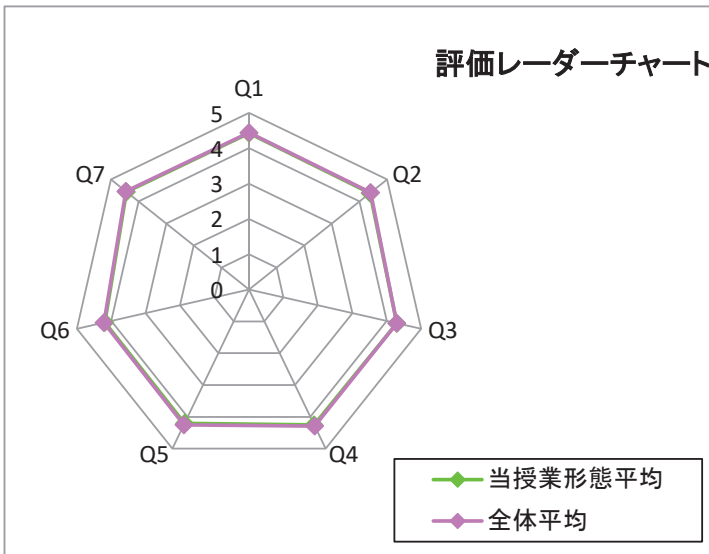
■授業形態

授業形態名
講義

履修者数	15,604	全科目数	482
回答者数	12,202	実施科目数	471

【授業形態項目 (講義)】

No.	設問文	全体平均点	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q17	教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた	4.3	4.3	6,023	3,919	1,579	260	153	35	11,969	233	0.869
				50.3%	32.7%	13.2%	2.2%	1.3%	0.3%			
Q18	黒板の字や視聴覚教材(パワーポイントなど)は見やすかった	4.2	4.2	5,889	3,775	1,639	400	218	47	11,968	234	0.936
				49.2%	31.5%	13.7%	3.3%	1.8%	0.4%			
Q19	授業の進むペースは適切であった	4.1	4.3	5,862	3,884	1,685	294	148	25	11,898	304	0.881
				49.3%	32.6%	14.2%	2.5%	1.2%	0.2%			



■授業形態

授業形態名	
演習	

履修者数	7,177	全科目数	434
回答者数	5,861	実施科目数	416

■学年

1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生		その他		計
2,636	45.5%	1,306	22.6%	1,412	24.4%	423	7.3%	4	0.1%	7	0.1%	5,788

■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生		その他		計
1,434	24.9%	951	16.5%	1,601	27.8%	1,773	30.8%	3	0.1%	1	0.0%	5,763

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない
 ※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	全体 平均点	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	4.5	3,419 58.6%	1,919 32.9%	424 7.3%	29 0.5%	26 0.4%	19 0.3%	5,836	25	0.692
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	4.5	3,423 58.7%	1,827 31.3%	438 7.5%	83 1.4%	34 0.6%	31 0.5%	5,836	25	0.746
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	4.3	3,014 51.7%	1,925 33.0%	697 12.0%	111 1.9%	64 1.1%	21 0.4%	5,832	29	0.841
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	4.4	3,225 55.3%	1,780 30.5%	559 9.6%	144 2.5%	109 1.9%	13 0.2%	5,830	31	0.891
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.2	4.3	3,164 54.3%	1,795 30.8%	600 10.3%	149 2.6%	110 1.9%	14 0.2%	5,832	29	0.899
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	4.2	2,879 49.4%	1,881 32.3%	754 12.9%	170 2.9%	126 2.2%	13 0.2%	5,823	38	0.937
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.5	4.5	3,631 62.4%	1,665 28.6%	415 7.1%	64 1.1%	35 0.6%	9 0.2%	5,819	42	0.729

【学習の状況】

No.	設問文	全体 平均点	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	4.2	2,738 47.0%	2,095 36.0%	710 12.2%	172 3.0%	94 1.6%	17 0.3%	5,826	35	0.894
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	4.4	3,675 63.3%	1,255 21.6%	586 10.1%	157 2.7%	108 1.9%	27 0.5%	5,808	53	0.913
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	2.7	651 11.2%	958 16.5%	1,398 24.1%	1,334 23.0%	1,303 22.5%	150 2.6%	5,794	67	1.305

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体 平均点	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	4.1	2,205 37.8%	2,057 35.3%	1,249 21.4%	134 2.3%	124 2.1%	58 1.0%	5,827	34	0.939
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	4.0	2,060 35.4%	1,932 33.2%	1,391 23.9%	194 3.3%	150 2.6%	97 1.7%	5,824	37	0.986
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	4.0	2,178 37.4%	1,880 32.3%	1,310 22.5%	216 3.7%	156 2.7%	84 1.4%	5,824	37	1.001
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	4.0	2,061 35.4%	2,016 34.6%	1,356 23.3%	183 3.1%	130 2.2%	74 1.3%	5,820	41	0.962
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	4.1	2,271 39.0%	2,079 35.7%	1,175 20.2%	143 2.5%	104 1.8%	53 0.9%	5,825	36	0.922
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	4.0	2,007 34.5%	1,997 34.3%	1,434 24.6%	176 3.0%	130 2.2%	77 1.3%	5,821	40	0.961

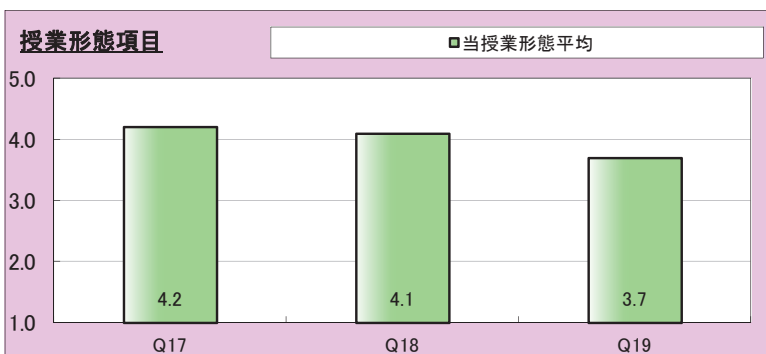
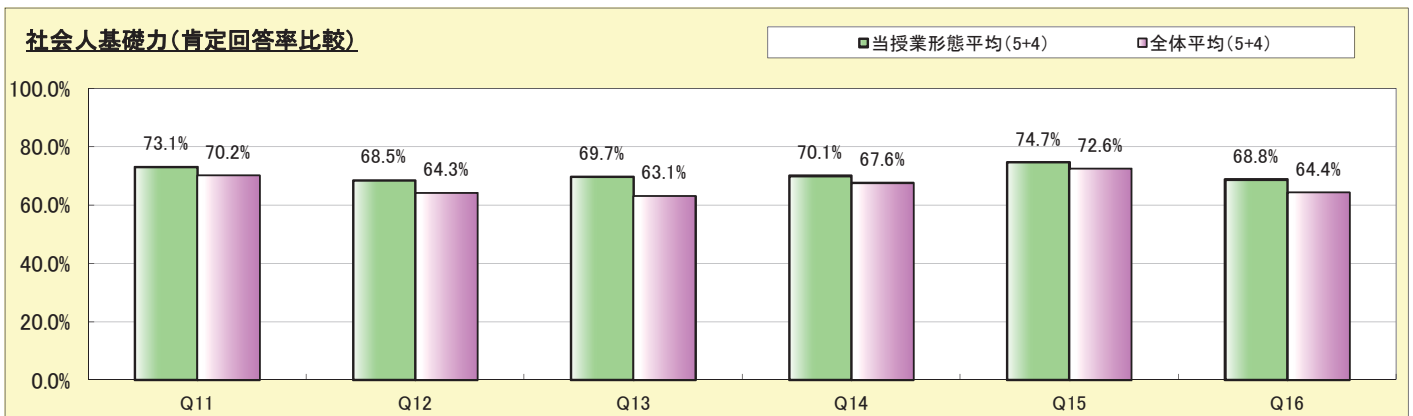
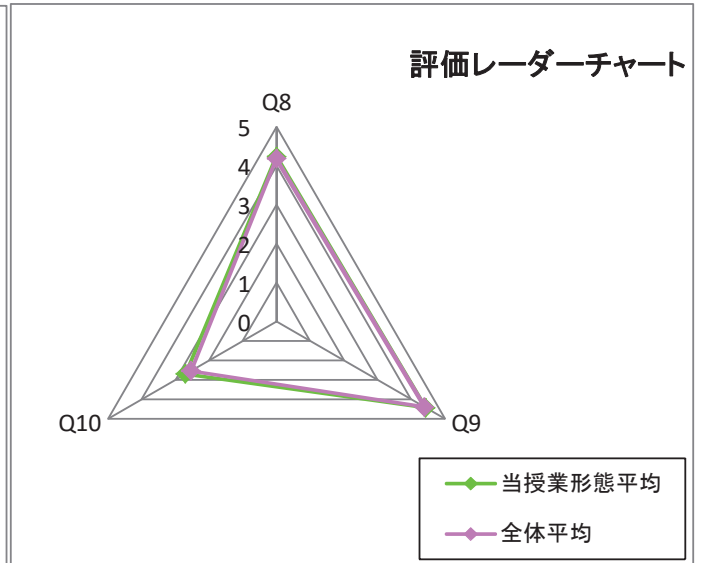
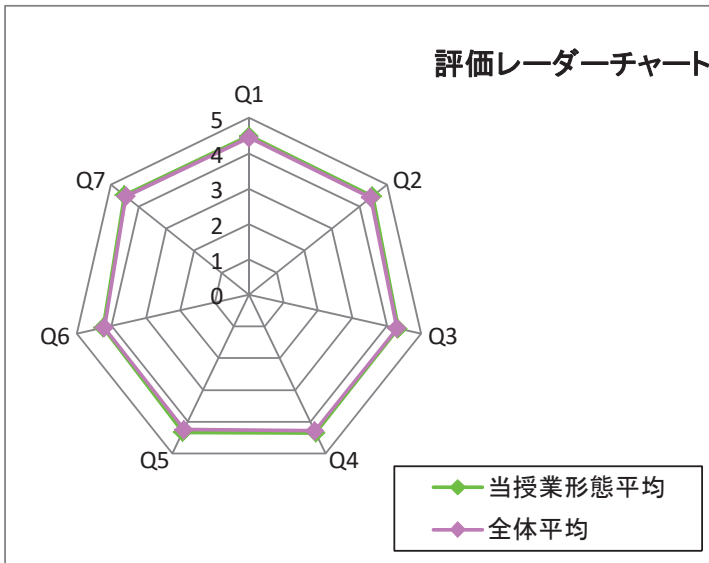
■授業形態

授業形態名
演習

履修者数	7,177	全科目数	434
回答者数	5,861	実施科目数	416

【授業形態項目 (演習)】

No.	設問文	全体平均点	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
				5	4	3	2	1				0
Q17	発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった	4.3	4.2	2,670 46.5%	1,881 32.7%	924 16.1%	129 2.2%	105 1.8%	39 0.7%	5,748	113	0.918
Q18	教員とコミュニケーションがとれた	4.2	4.1	2,515 43.8%	1,781 31.0%	1,031 17.9%	222 3.9%	160 2.8%	39 0.7%	5,748	113	1.010
Q19	授業中に質問や発言を積極的にした	4.1	3.7	1,809 31.6%	1,576 27.5%	1,424 24.8%	419 7.3%	409 7.1%	95 1.7%	5,732	129	1.198



■授業形態

授業形態名	
実習	

履修者数	995	全科目数	34
回答者数	730	実施科目数	32

■学年

1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生		その他		計
208	28.8%	218	30.2%	244	33.8%	50	6.9%	1	0.1%	0	0.0%	721

■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生		その他		計
149	20.8%	40	5.6%	137	19.1%	390	54.5%	0	0.0%	0	0.0%	716

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	全体 平均点	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	4.5	435	229	52	5	4	4	729	1	0.708
				59.7%	31.4%	7.1%	0.7%	0.5%	0.5%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	4.4	405	242	61	8	3	10	729	1	0.730
				55.6%	33.2%	8.4%	1.1%	0.4%	1.4%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	4.2	355	230	107	20	11	5	728	2	0.910
				48.8%	31.6%	14.7%	2.7%	1.5%	0.7%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	4.4	390	228	82	15	8	5	728	2	0.844
				53.6%	31.3%	11.3%	2.1%	1.1%	0.7%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.2	4.4	385	248	66	14	7	6	726	4	0.807
				53.0%	34.2%	9.1%	1.9%	1.0%	0.8%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	4.5	429	219	59	13	5	2	727	3	0.775
				59.0%	30.1%	8.1%	1.8%	0.7%	0.3%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.5	4.5	438	216	52	8	4	6	724	6	0.727
				60.5%	29.8%	7.2%	1.1%	0.6%	0.8%			

【学習の状況】

No.	設問文	全体 平均点	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	4.4	386	255	70	7	6	3	727	3	0.768
				53.1%	35.1%	9.6%	1.0%	0.8%	0.4%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	4.5	482	155	64	12	8	6	727	3	0.813
				66.3%	21.3%	8.8%	1.7%	1.1%	0.8%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	3.1	134	171	159	90	140	27	721	9	1.395
				18.6%	23.7%	22.1%	12.5%	19.4%	3.7%			

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体 平均点	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	4.3	360	228	118	8	7	7	728	2	0.845
				49.5%	31.3%	16.2%	1.1%	1.0%	1.0%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	4.3	350	225	128	9	8	8	728	2	0.867
				48.1%	30.9%	17.6%	1.2%	1.1%	1.1%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	4.2	347	219	129	18	6	9	728	2	0.886
				47.7%	30.1%	17.7%	2.5%	0.8%	1.2%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	4.2	318	241	148	10	6	5	728	2	0.861
				43.7%	33.1%	20.3%	1.4%	0.8%	0.7%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	4.3	368	235	106	8	5	4	726	4	0.813
				50.7%	32.4%	14.6%	1.1%	0.7%	0.6%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	4.3	355	222	130	9	6	6	728	2	0.853
				48.8%	30.5%	17.9%	1.2%	0.8%	0.8%			

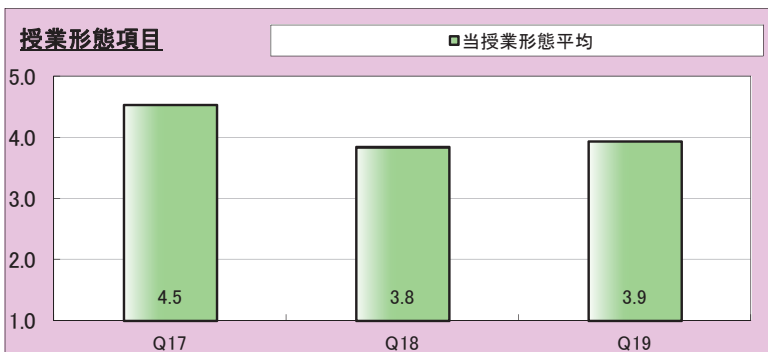
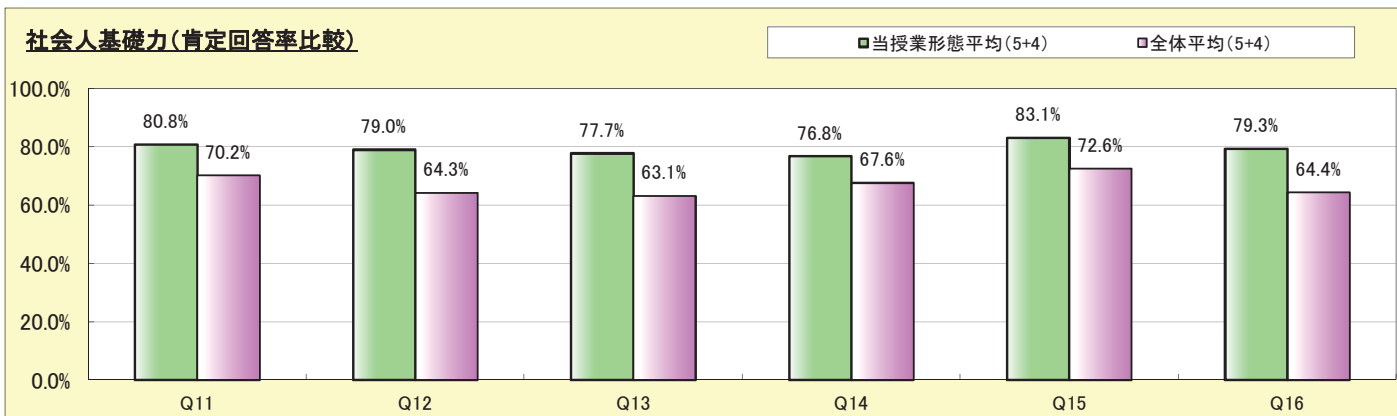
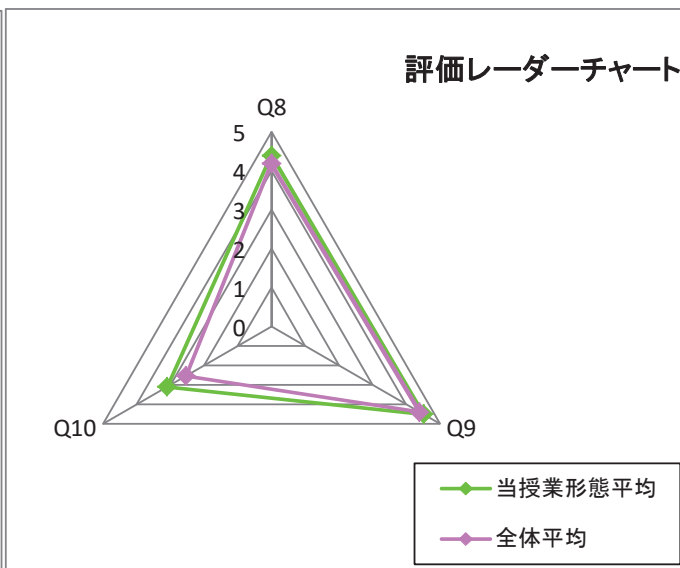
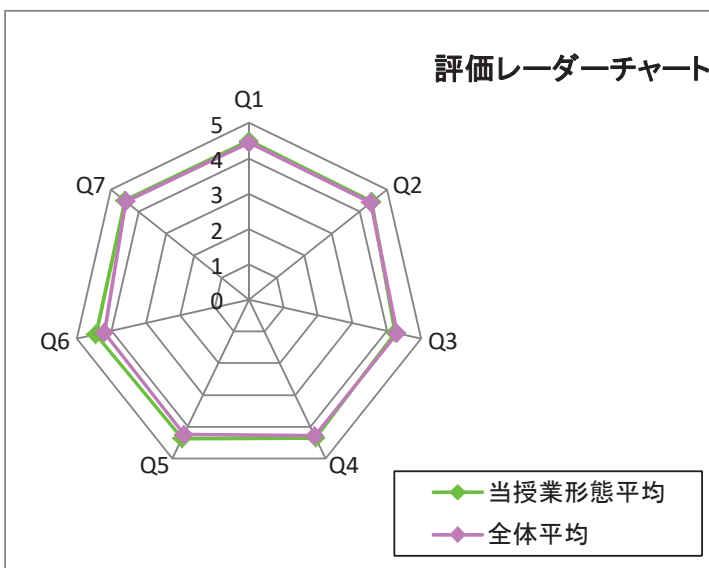
■授業形態

授業形態名
実習

履修者数	995	全科目数	34
回答者数	730	実施科目数	32

【授業形態項目 (実習)】

No.	設問文	全体平均点	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q17	実習はやりがいがあった	4.3	4.5	469	164	59	8	6	7	713	17	0.766
				65.8%	23.0%	8.3%	1.1%	0.8%	1.0%			
Q18	授業中に質問や発言を積極的にした	4.2	3.8	242	209	167	56	24	16	714	16	1.092
				33.9%	29.3%	23.4%	7.8%	3.4%	2.2%			
Q19	TAなどのサポートが役に立った	4.1	3.9	234	169	162	20	23	92	700	30	1.058
				33.4%	24.1%	23.1%	2.9%	3.3%	13.1%			



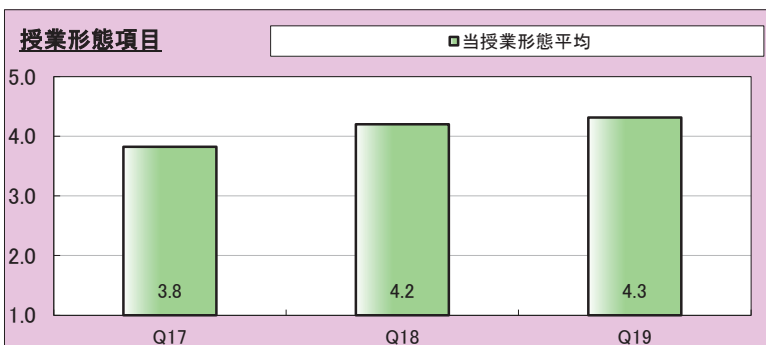
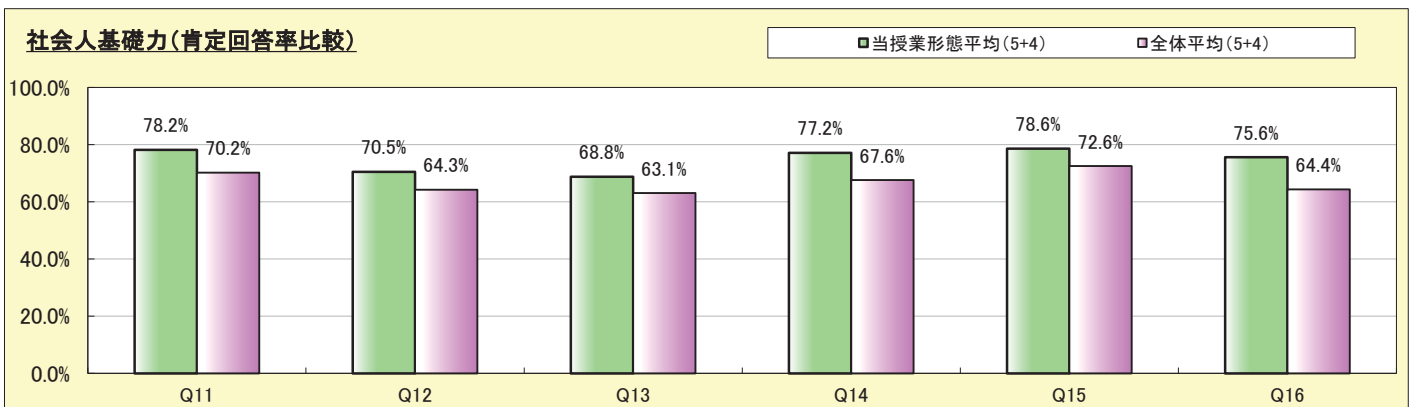
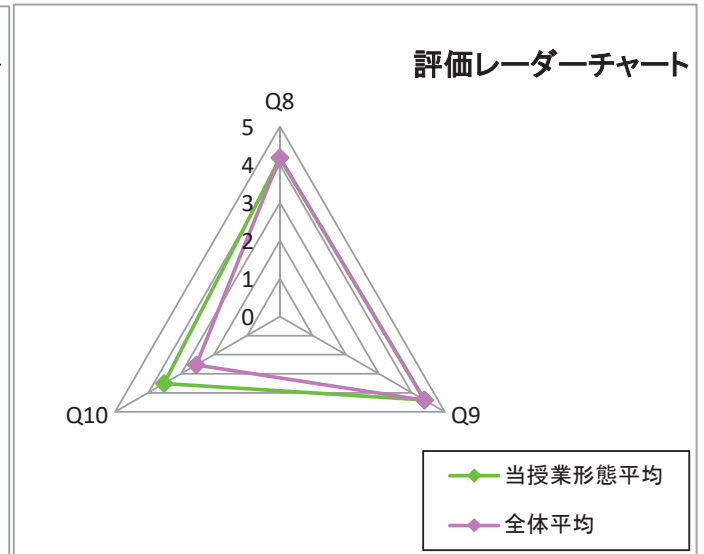
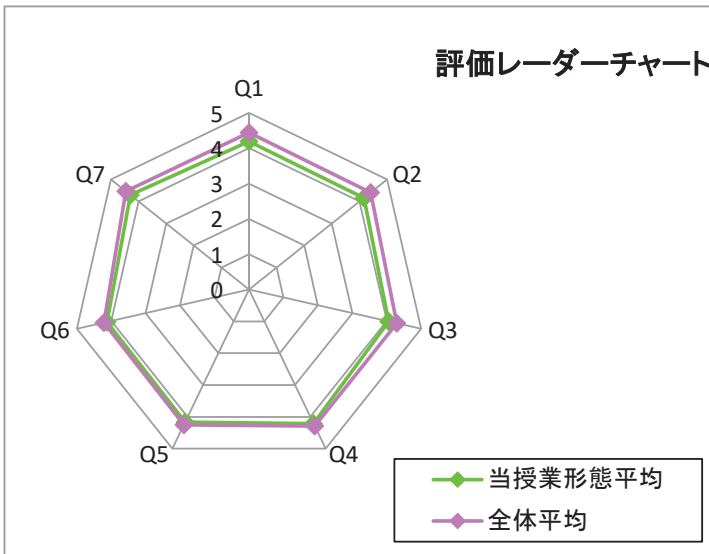
■授業形態

授業形態名
卒業研究

履修者数	319	全科目数	51
回答者数	236	実施科目数	51

【授業形態項目 (卒業研究)】

No.	設問文	全体平均点	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q17	卒業研究の作成過程・出来栄に満足している	4.3	3.8	65 28.0%	95 40.9%	47 20.3%	13 5.6%	11 4.7%	1 0.4%	232	4	1.052
Q18	指導教員から適切な指導を受けた	4.2	4.2	115 49.6%	66 28.4%	37 15.9%	4 1.7%	8 3.4%	2 0.9%	232	4	1.002
Q19	卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった	4.1	4.3	118 50.9%	76 32.8%	29 12.5%	4 1.7%	3 1.3%	2 0.9%	232	4	0.853



「学生による授業評価アンケート」

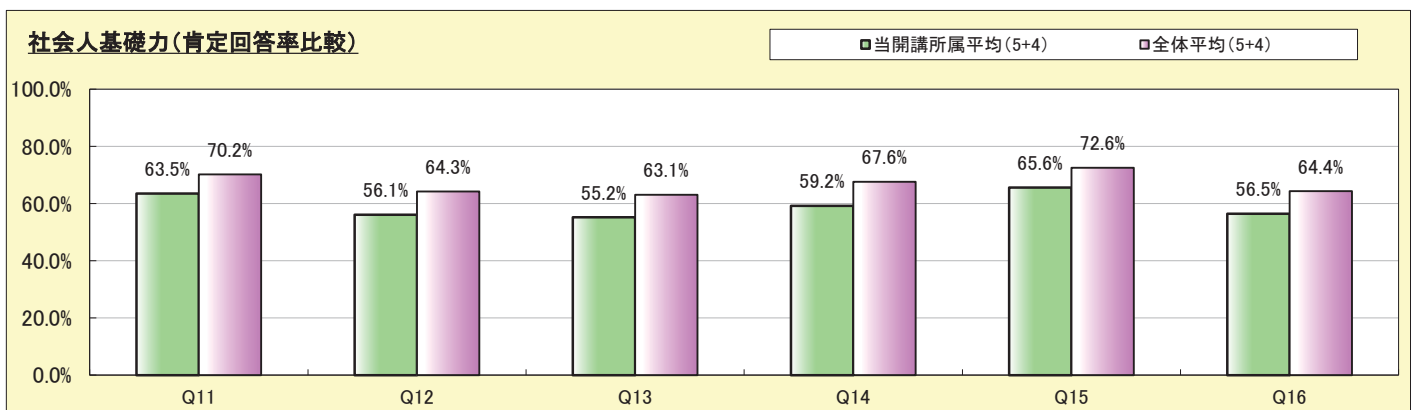
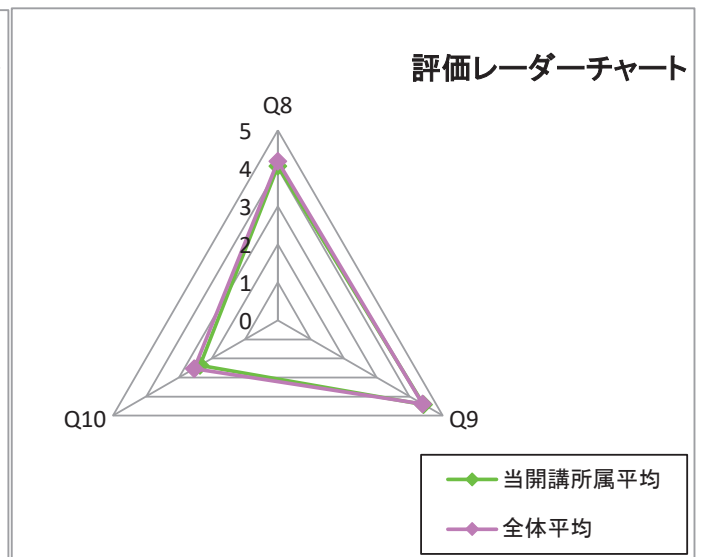
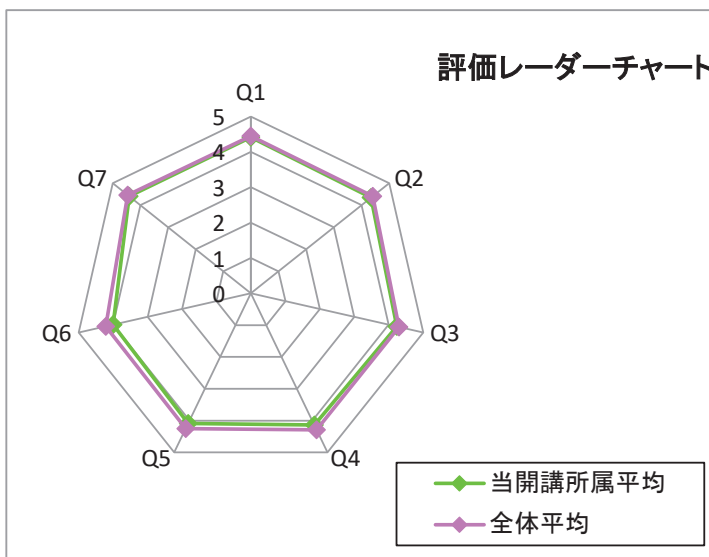
3.集計結果

(3) 【開講所属別】

■開講所属

開講所属名
共通教育科目

履修者数	7,707	全科目数	222
回答者数	6,052	実施科目数	221



■開講所属

開講所属名	履修者数	964	全科目数	51
	資格関係	回答者数	775	実施科目数

■学年

1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生		その他		計
41	5.3%	241	31.3%	316	41.1%	170	22.1%	1	0.1%	0	0.0%	769

■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生		その他		計
171	22.5%	326	42.8%	113	14.8%	150	19.7%	1	0.1%	0	0.0%	761

※Q10以外 5: と思う 4: どちらかと言えば思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	全体 平均点	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
				5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	4.4	431	270	66	4	3	0	774	1	0.704
				55.7%	34.9%	8.5%	0.5%	0.4%	0.0%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	4.4	427	256	73	13	3	1	773	2	0.761
				55.2%	33.1%	9.4%	1.7%	0.4%	0.1%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	4.3	380	261	95	21	15	1	773	2	0.913
				49.2%	33.8%	12.3%	2.7%	1.9%	0.1%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	4.2	392	255	76	24	27	0	774	1	0.992
				50.6%	32.9%	9.8%	3.1%	3.5%	0.0%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.2	4.2	374	261	86	29	22	0	772	3	0.979
				48.4%	33.8%	11.1%	3.8%	2.8%	0.0%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	4.2	366	269	91	28	19	0	773	2	0.956
				47.3%	34.8%	11.8%	3.6%	2.5%	0.0%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.5	4.5	455	233	66	11	4	1	770	5	0.754
				59.1%	30.3%	8.6%	1.4%	0.5%	0.1%			

【学習の状況】

No.	設問文	全体 平均点	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
				5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	4.3	355	295	88	21	9	0	768	7	0.852
				46.2%	38.4%	11.5%	2.7%	1.2%	0.0%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	4.4	453	207	70	22	14	0	766	9	0.901
				59.1%	27.0%	9.1%	2.9%	1.8%	0.0%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	2.6	87	104	159	176	205	34	765	10	1.343
				11.4%	13.6%	20.8%	23.0%	26.8%	4.4%			

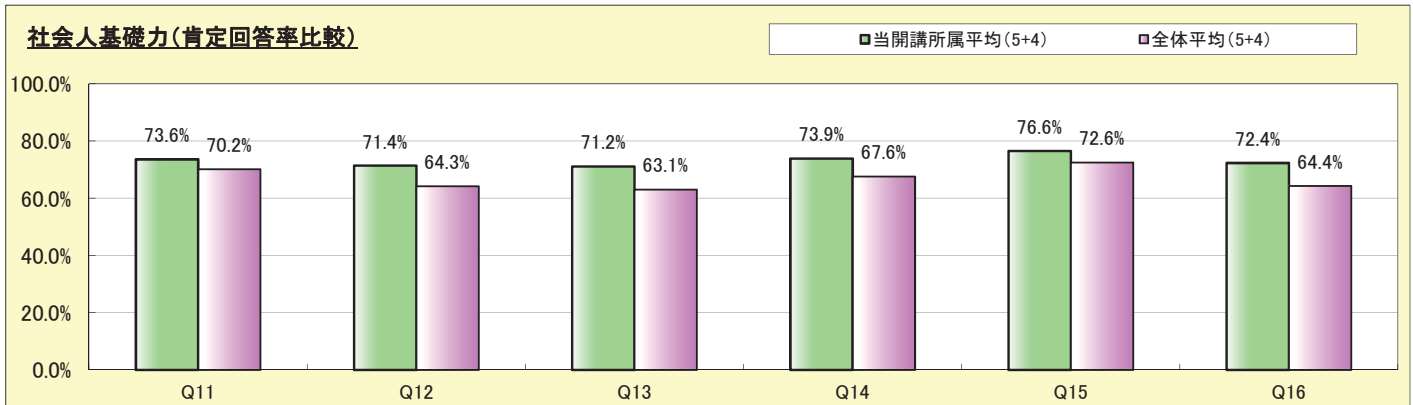
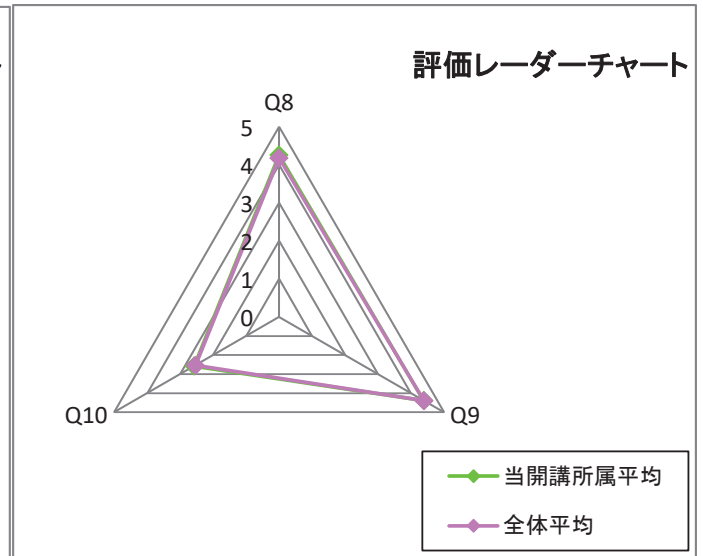
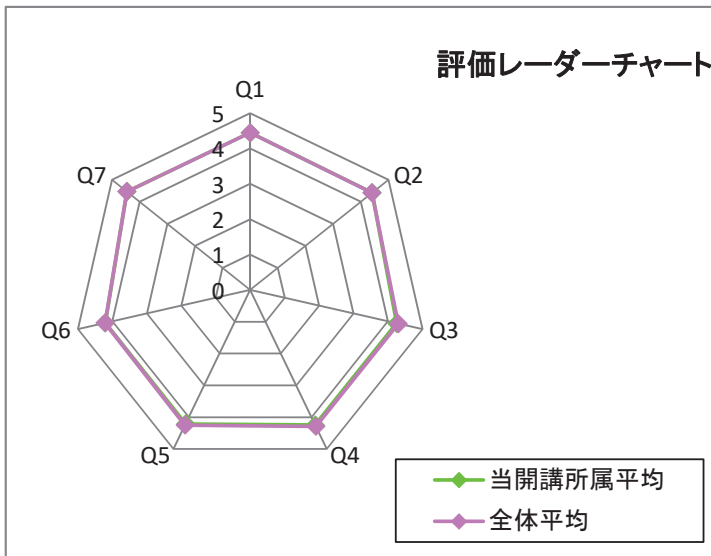
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体 平均点	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
				5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	4.1	322	248	160	25	12	7	774	1	0.943
				41.6%	32.0%	20.7%	3.2%	1.6%	0.9%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	4.0	282	271	166	32	14	9	774	1	0.958
				36.4%	35.0%	21.4%	4.1%	1.8%	1.2%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	4.0	288	262	170	31	14	8	773	2	0.962
				37.3%	33.9%	22.0%	4.0%	1.8%	1.0%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	4.1	307	263	163	21	12	5	771	4	0.926
				39.8%	34.1%	21.1%	2.7%	1.6%	0.6%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	4.2	331	261	148	14	13	6	773	2	0.910
				42.8%	33.8%	19.1%	1.8%	1.7%	0.8%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	4.1	291	267	173	21	11	8	771	4	0.919
				37.7%	34.6%	22.4%	2.7%	1.4%	1.0%			

■開講所属

開講所属名
資格関係

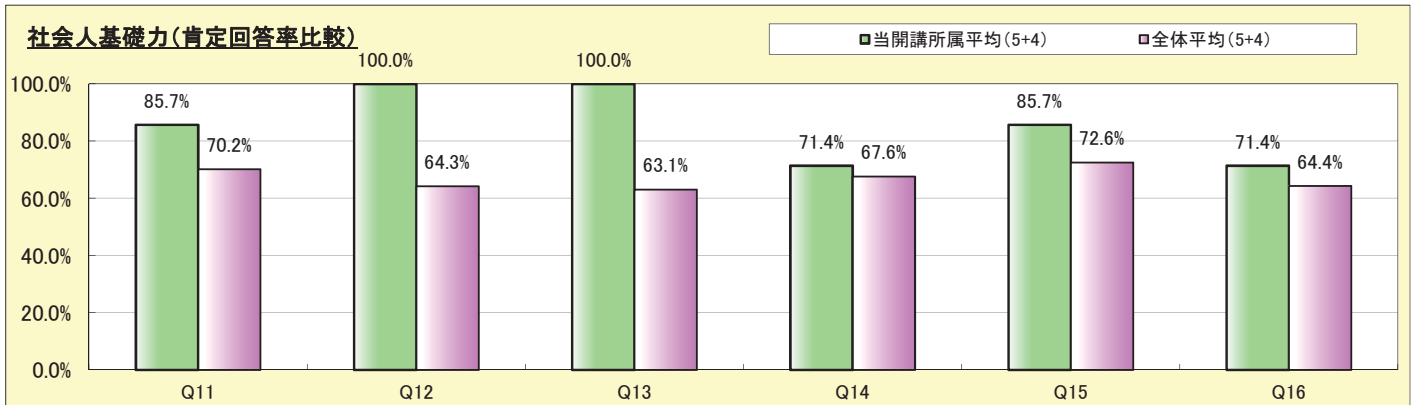
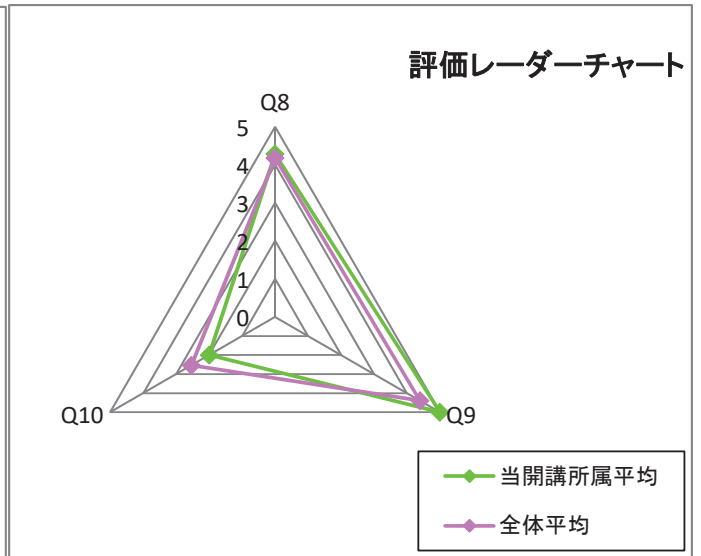
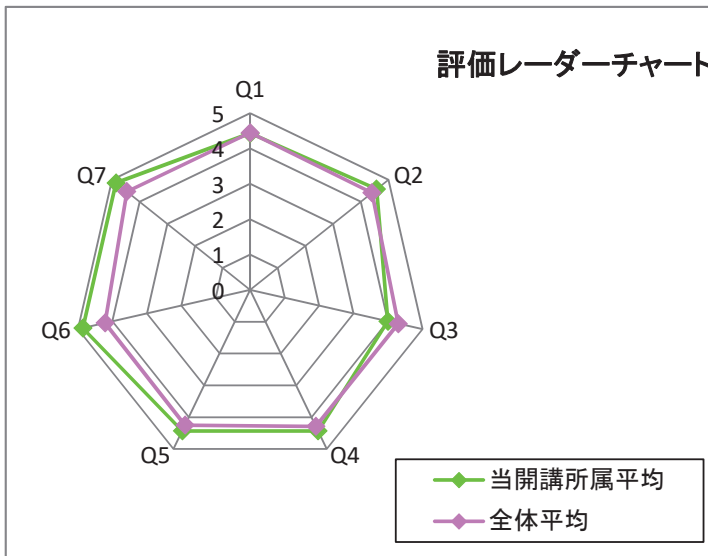
履修者数	964	全科目数	51
回答者数	775	実施科目数	49



■開講所属

開講所属名
人間文化学部共通科目

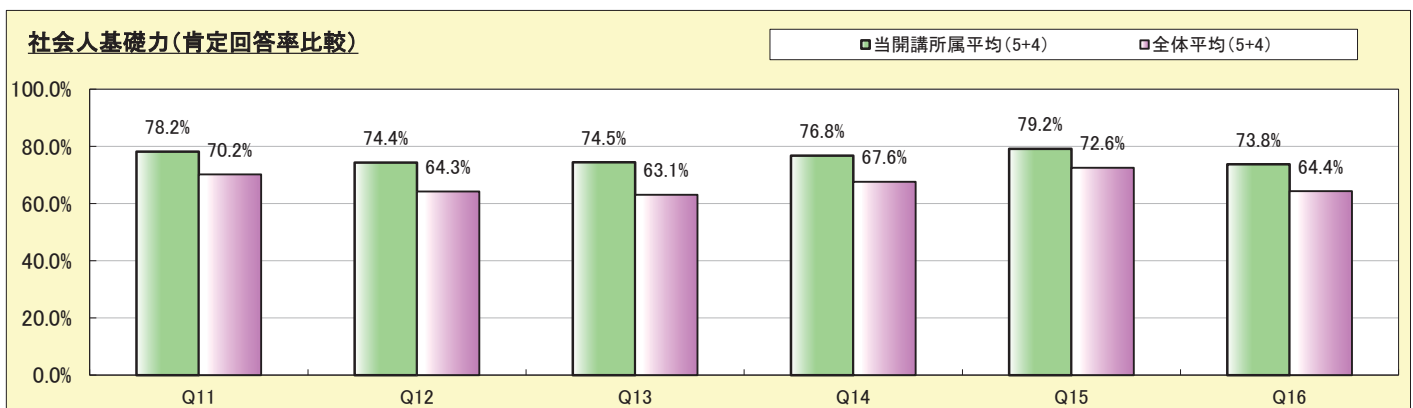
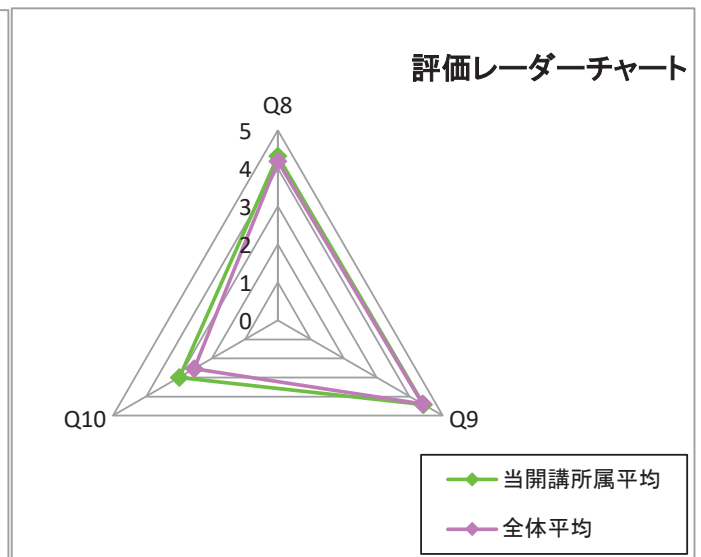
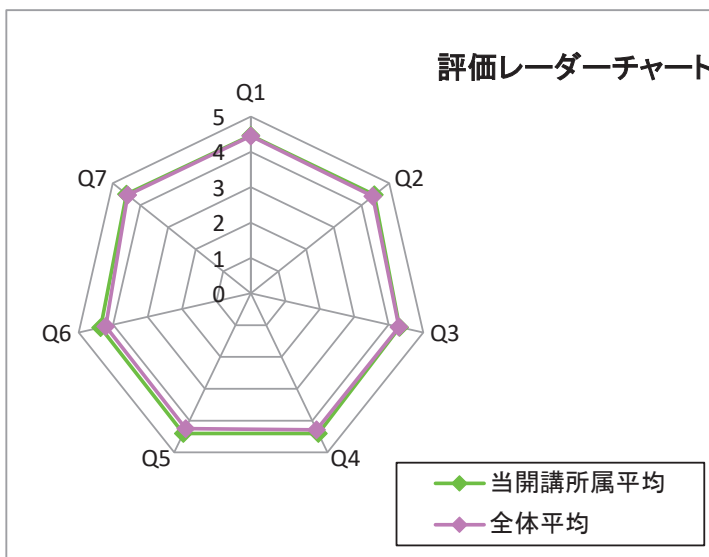
履修者数	13	全科目数	2
回答者数	7	実施科目数	1



■開講所属

開講所属名
英語英文学科専門教育科目

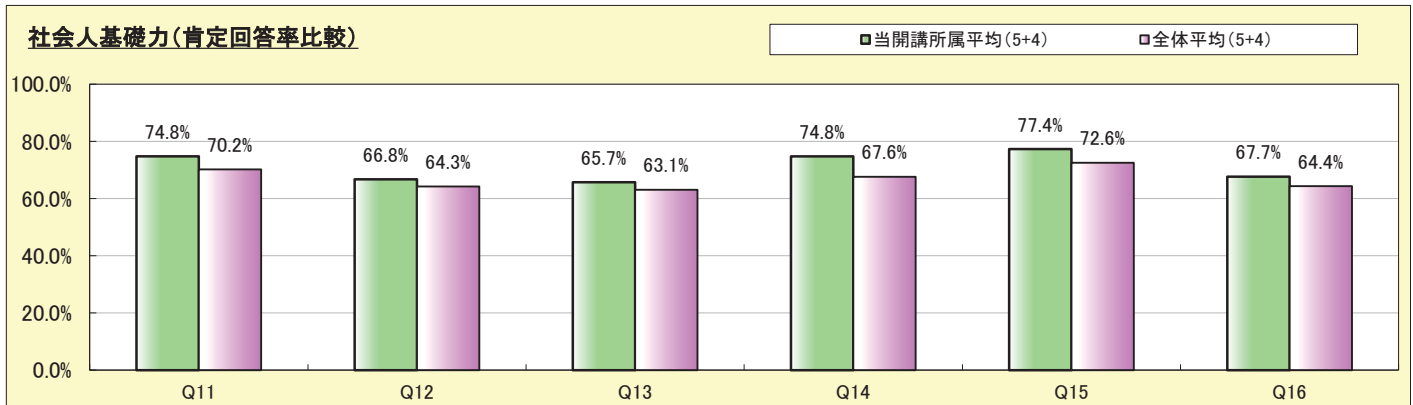
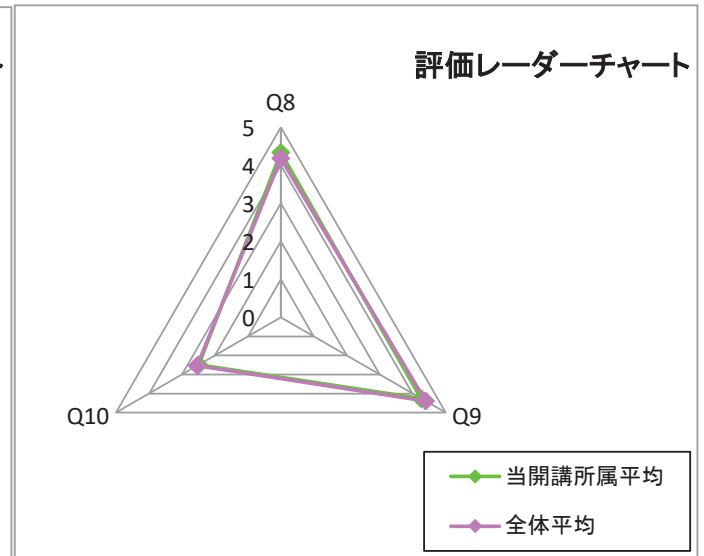
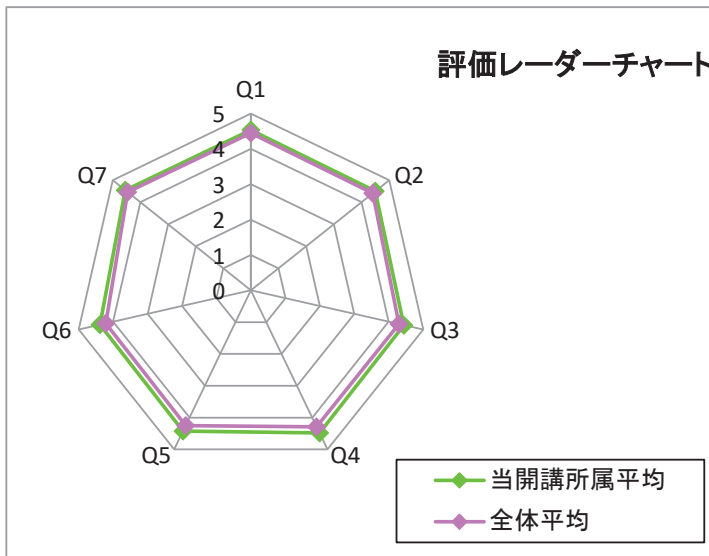
履修者数	4,450	全科目数	237
回答者数	3,459	実施科目数	224



■開講所属

開講所属名
人間文化学科専門教育科目

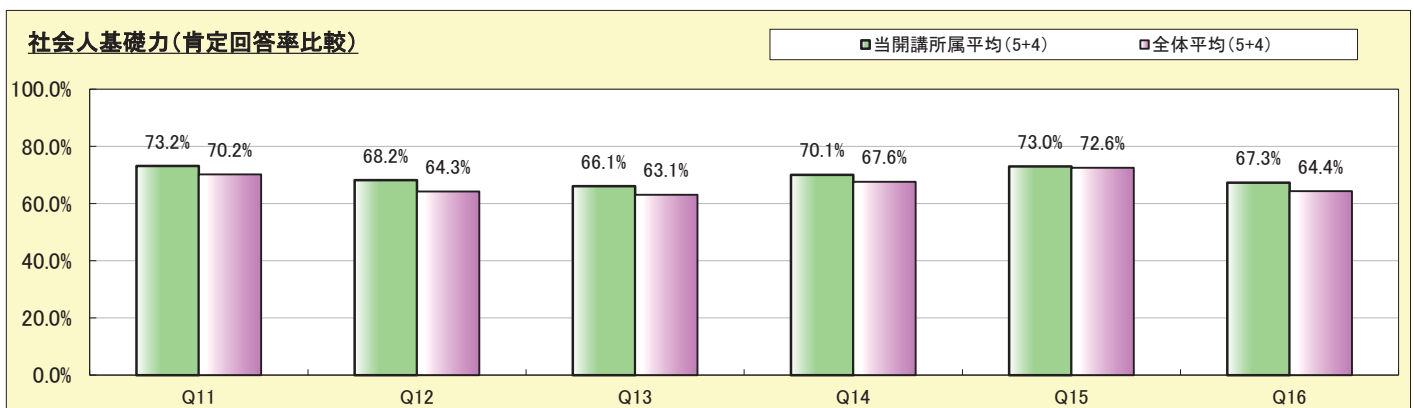
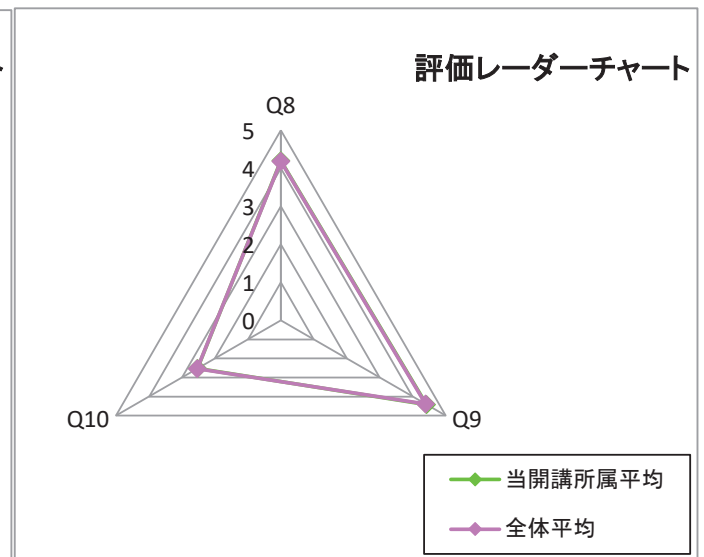
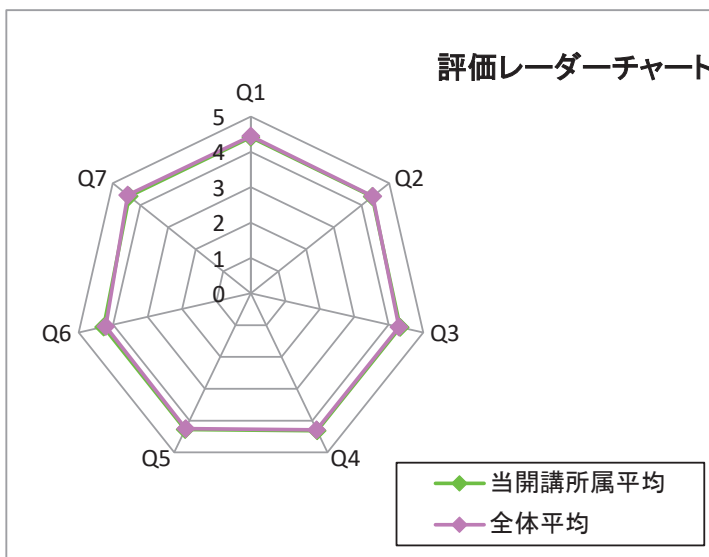
履修者数	2,191	全科目数	121
回答者数	1,677	実施科目数	120



■開講所属

開講所属名
生活福祉文化学部専門教育科目

履修者数	3,744	全科目数	216
回答者数	3,176	実施科目数	211



2016年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属

開講所属名		履修者数	5,026	全科目数	152
心理学部専門教育科目		回答者数	3,883	実施科目数	144

■学年

1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生		その他		計
993	25.9%	1,227	32.1%	1,140	29.8%	463	12.1%	5	0.1%	0	0.0%	3,828

■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生		その他		計
19	0.5%	11	0.3%	14	0.4%	3,751	98.8%	3	0.1%	0	0.0%	3,798

※Q10以外 5: と思う 4: どちらかと言えば思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	全体平均点	当開講所属平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	4.5	2,197 56.9%	1,333 34.5%	288 7.5%	28 0.7%	14 0.4%	4 0.1%	3,864	19	0.697
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	4.4	2,156 55.8%	1,320 34.2%	292 7.6%	74 1.9%	17 0.4%	6 0.2%	3,865	18	0.751
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	4.3	1,973 51.2%	1,256 32.6%	472 12.2%	102 2.6%	45 1.2%	9 0.2%	3,857	26	0.869
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	4.3	2,059 53.4%	1,194 31.0%	413 10.7%	117 3.0%	72 1.9%	2 0.1%	3,857	26	0.914
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.2	4.3	1,915 49.7%	1,265 32.8%	487 12.6%	129 3.3%	57 1.5%	2 0.1%	3,855	28	0.907
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	4.3	1,991 51.6%	1,206 31.3%	453 11.8%	118 3.1%	83 2.2%	4 0.1%	3,855	28	0.936
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.5	4.5	2,424 62.9%	1,104 28.6%	251 6.5%	54 1.4%	21 0.5%	1 0.0%	3,855	28	0.728

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均点	当開講所属平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	4.2	1,663 43.1%	1,457 37.8%	510 13.2%	140 3.6%	77 2.0%	8 0.2%	3,855	28	0.929
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	4.4	2,310 60.1%	908 23.6%	425 11.1%	114 3.0%	72 1.9%	15 0.4%	3,844	39	0.928
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	2.4	339 8.8%	480 12.5%	795 20.7%	904 23.6%	1,183 30.8%	137 3.6%	3,838	45	1.301

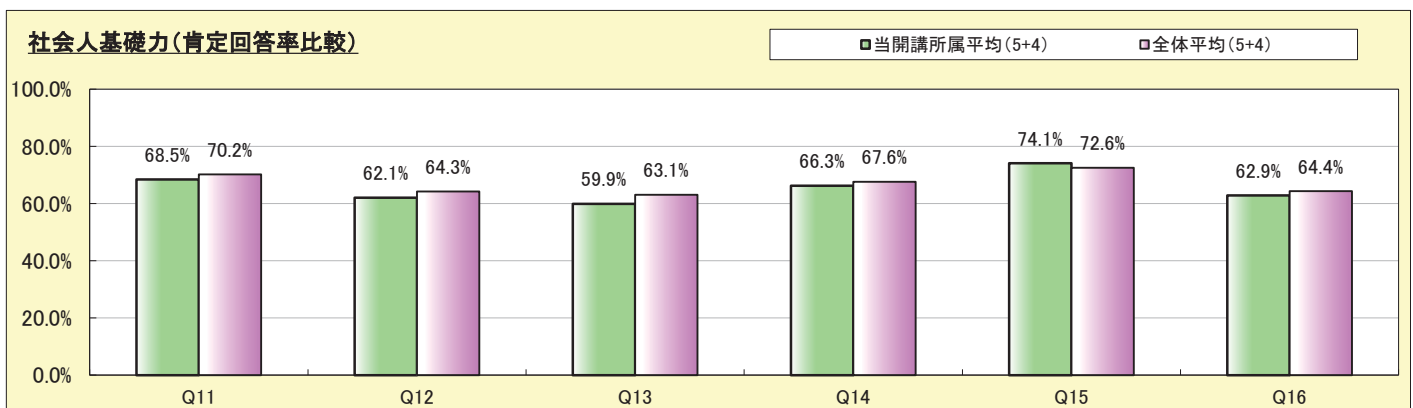
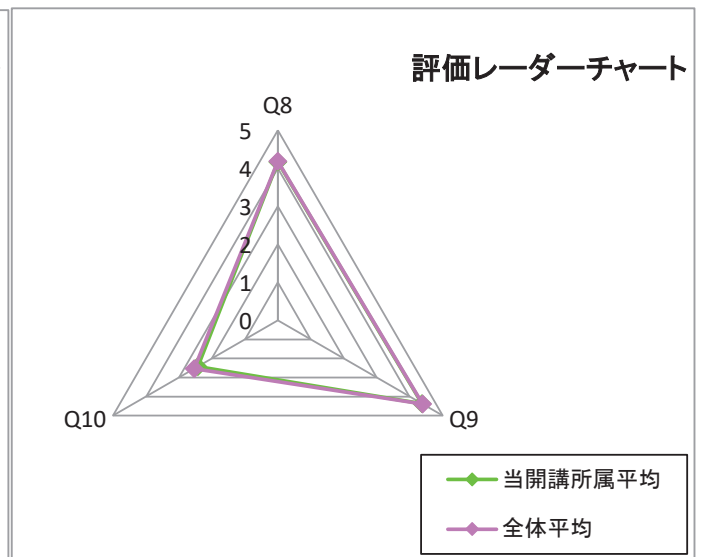
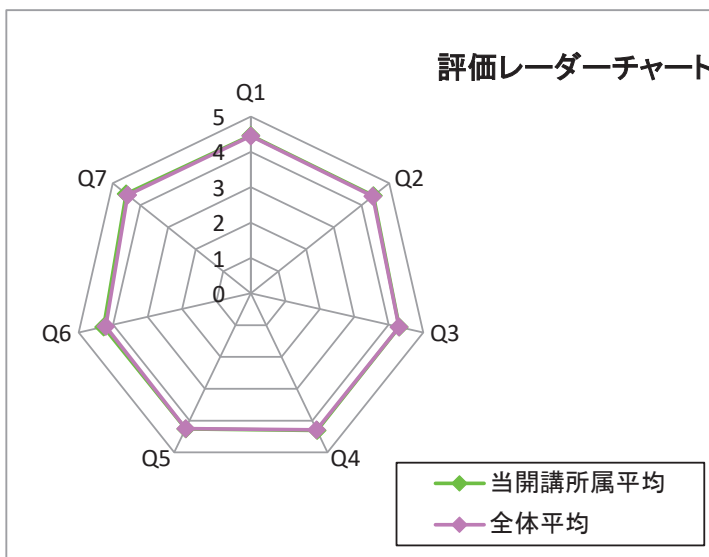
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均点	当開講所属平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	4.0	1,327 34.4%	1,311 34.0%	967 25.1%	102 2.6%	81 2.1%	65 1.7%	3,853	30	0.951
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	3.8	1,197 31.0%	1,197 31.0%	1,071 27.8%	176 4.6%	123 3.2%	92 2.4%	3,856	27	1.029
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	3.8	1,188 30.8%	1,121 29.1%	1,079 28.0%	221 5.7%	149 3.9%	95 2.5%	3,853	30	1.073
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	3.9	1,256 32.6%	1,296 33.7%	994 25.8%	129 3.3%	103 2.7%	73 1.9%	3,851	32	0.985
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	4.1	1,516 39.4%	1,340 34.8%	795 20.6%	79 2.1%	73 1.9%	49 1.3%	3,852	31	0.925
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	3.9	1,210 31.4%	1,211 31.5%	1,085 28.2%	161 4.2%	107 2.8%	76 2.0%	3,850	33	1.008

■開講所属

開講所属名
心理学部専門教育科目

履修者数	5,026	全科目数	152
回答者数	3,883	実施科目数	144



4. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

全学部のアンケート結果の「授業の状況」の各項目で、全体平均が4.2点以上あり、高い数値を示している。「学習の状況」の(8)「授業の内容は理解できた」では、全体平均が4.2点、(9)「やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった」では、全体平均が4.4点と高い数値を示しているものの、(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか」の項目では、全体平均が2.5点であり、低い数値を示している。「学習成果」では、各項目で3.9点以上あり、比較的高い数値を示している。

次に授業形態別のアンケート結果の(17)(18)(19)の各項目では、4点前後であり、比較的高い数値を示している。それぞれの授業形態別に比較すると、「学習状況」(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか」で、大きく結果が異なっている。「講義科目」では、2.4点、「演習科目」では2.7点「実習科目」では3.1点「卒業研究科目」では3.5点となった。こうした結果に鑑みれば、科目の課題の明確さに比例し、より高い数値を示していることが推測できるが、全体のアンケート結果において、低い数値であり、授業外での学習時間の確保が今後の課題としてあげられる。

開講所属では、「英語英文学科専門教育科目」では、各項目において、全体の平均値と大差はないが、(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか」の項目で、3.0点と、比較的高い数値を示している。「人間文化学科専門教育科目」では、各項目において、全体の平均値と大差はないが、「学習成果」の項目で、全体の平均値を上回る結果を示している。「心理学部専門教育科目」では、各項目において、全体の平均値と大差はないが、(15)「この授業で、「思考・解決する力」が向上した」の項目で、5点が39.4%を占め、比較的高い数値を示している。「生活福祉学部専門教育」では、各項目において、全体の平均値と大差はないが、(14)「この授業で、「創造・発信する力」が向上した」の項目で、4.0点と比較的高い数値が示されている。次に、「人間文化学部共通科目」では、全体の平均値と大差はないが、(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか」の項目で2.0点と比較的低い数値を示している。しかしながら、科目数と回答者数が極端に少ないため、結果を慎重にとらえる必要があるだろう。「共通教育科目」では、「学習成果」以外の項目において、全体の平均値と大差はないが、「学習成果」の各項目で、若干平均を下回る結果となった。「資格関係」の科目では、「学習成果」以外の項目において、全体の平均値と大差はないが、「学習成果」の各項目で、全体の平均値を若干上回る結果となった。開講所属別のアンケート結果では、概して全体の平均値と大差はないが、予習が必要となる語学科目などの多い学科に関して、(10)の項目で高い数値が出る傾向にあると考えられる。一方、「資格関係」の科目において、「学習成果」で高い数値が出ているが、比較的目的や指標を明確化しやすいということに起因していると推察できよう。

最後に、全学のアンケート結果に鑑みると、ほとんどの項目において、非常に高い数値が示されているが、「高すぎる」という意味において、望外な結果であるとの印象を受けざるを得ない。アンケートの中に粗慢な回答を含んでいることは否定できず、その可能性も考慮すべきである。したがって、集計結果をより冷静に判断することが求められる。今後の課題として、アンケートの実施方法や実施の際の指導などを含め、「授業評価アンケート」のあり方について、根本的に見直し、対策を行う必要があるだろう。

文責：大川 淳（人間文化学部 英語英文学科 FD 委員）



ご意見・ご要望を
お聞かせください

学生による授業評価アンケート

京都ノートルダム女子大学
2016年度

【注意事項】

- ・複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接、担当教員が見ることはありません。

I. あなたの学年の番号にマークしてください。

- ① 1年次生 ② 2年次生 ③ 3年次生 ④ 4年次生 ⑤ 科目等履修生 ⑥ その他

II. あなたの所属学部(学科)の番号にマークしてください。

- ① 人間文化(英語英文) ② 人間文化(人間文化) ③ 生活福祉文化 ④ 心理 ⑤ 科目等履修生 ⑥ その他

III. この科目(授業)について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、マークしてください。

【授業の状況】

	5 そう思う	4 どちらかと言えば そう思う	3 どちらとも 言えない	2 どちらかと言えば そう思わない	1 そう 思わない	0 該当 しない
(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	5	4	3	2	1	0
(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	5	4	3	2	1	0
(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた	5	4	3	2	1	0
(4) 教員の話し方は、わかりやすかった	5	4	3	2	1	0
(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	5	4	3	2	1	0
(6) 授業は興味関心の持てる内容であった	5	4	3	2	1	0
(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった	5	4	3	2	1	0

【学習の状況】

	5 2時間以上	4 1~2時間未満	3 30分~1時間未満	2 30分未満	1 0時間	0
(8) 授業の内容は理解できた	5	4	3	2	1	0
(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	5	4	3	2	1	0
(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	5	4	3	2	1	0

【学習成果(社会人基礎力)】 本学では、卒業時までに養成したい力として「社会人基礎力」を定め、これを具現化する力として6つの力を設定し、各授業科目に位置づけています。

(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	5	4	3	2	1	0

【授業形態項目(講義)】

(17) 教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた	5	4	3	2	1	0
(18) 黒板の字や視聴覚教材(パワーポイントなど)は見やすかった	5	4	3	2	1	0
(19) 授業の進むペースは適切であった	5	4	3	2	1	0

【独自設定項目】

(20)	5	4	3	2	1	0
------	---	---	---	---	---	---

IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。

.....

.....

.....

V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました

K9574C 110kg



ご意見・ご要望を
お聞かせください

学生による授業評価アンケート

京都ノートルダム女子大学

2016年度

【注意事項】

- ・複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接、担当教員が見ることはありません。

I. あなたの学年の番号にマークしてください。

- ① 1年次生 ② 2年次生 ③ 3年次生 ④ 4年次生 ⑤ 科目等履修生 ⑥ その他

II. あなたの所属学部(学科)の番号にマークしてください。

- ① 人間文化(英語英文) ② 人間文化(人間文化) ③ 生活福祉文化 ④ 心理 ⑤ 科目等履修生 ⑥ その他

III. この科目(授業)について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、マークしてください。

【授業の状況】

	5 そう思う	4 どちらかと言えば そう思う	3 どちらとも 言えない	2 どちらかと言えば そう思わない	1 そう 思わない	0 該当 しない
(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	5	4	3	2	1	0
(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	5	4	3	2	1	0
(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた	5	4	3	2	1	0
(4) 教員の話し方は、わかりやすかった	5	4	3	2	1	0
(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	5	4	3	2	1	0
(6) 授業は興味関心の持てる内容であった	5	4	3	2	1	0
(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった	5	4	3	2	1	0

【学習の状況】

	5 (2時間以上)	4 (1~2時間未満)	3 (30分~1時間未満)	2 (30分未満)	1 (0時間)	0
(8) 授業の内容は理解できた	5	4	3	2	1	0
(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	5	4	3	2	1	0
(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	5	4	3	2	1	0

【学習成果(社会人基礎力)】

本学では、卒業時までには養成したい力として「社会人基礎力」を定め、これを具現化する力として6つの力を設定し、各授業科目に位置づけています。

(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	5	4	3	2	1	0

【授業形態項目(実習)】

(17) 実習はやりがいがあった	5	4	3	2	1	0
(18) 授業中に質問や発言を積極的にした	5	4	3	2	1	0
(19) TAなどのサポートが役に立った	5	4	3	2	1	0

【独自設定項目】

(20)	5	4	3	2	1	0
------	---	---	---	---	---	---

IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。

.....

.....

.....

V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました

K9574C 110kg



ご意見・ご要望を
お聞かせください

学生による授業評価アンケート

京都ノートルダム女子大学
2016年度

【注意事項】

- ・複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接、担当教員が見ることはありません。

I. あなたの学年の番号にマークしてください。

- ① 1年次生 ② 2年次生 ③ 3年次生 ④ 4年次生 ⑤ 科目等履修生 ⑥ その他

II. あなたの所属学部(学科)の番号にマークしてください。

- ① 人間文化(英語英文) ② 人間文化(人間文化) ③ 生活福祉文化 ④ 心理 ⑤ 科目等履修生 ⑥ その他

III. この科目(授業)について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、マークしてください。

【授業の状況】

	5 そう思う	4 どちらかと言えば そう思う	3 どちらとも 言えない	2 どちらかと言えば そう思わない	1 そう 思わない	0 該当 しない
(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	5	4	3	2	1	0
(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	5	4	3	2	1	0
(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた	5	4	3	2	1	0
(4) 教員の話し方は、わかりやすかった	5	4	3	2	1	0
(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	5	4	3	2	1	0
(6) 授業は興味関心の持てる内容であった	5	4	3	2	1	0
(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった	5	4	3	2	1	0

【学習の状況】

	5 (2時間以上)	4 (1~2時間未満)	3 (30分~1時間未満)	2 (30分未満)	1 (0時間)	0
(8) 授業の内容は理解できた	5	4	3	2	1	0
(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	5	4	3	2	1	0
(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	5	4	3	2	1	0

【学習成果(社会人基礎力)】 本学では、卒業時までには養成したい力として「社会人基礎力」を定め、これを具現化する力として6つの力を設定し、各授業科目に位置づけています。

(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	5	4	3	2	1	0

【授業形態項目(演習)】

(17) 発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった	5	4	3	2	1	0
(18) 教員とコミュニケーションがとれた	5	4	3	2	1	0
(19) 授業中に質問や発言を積極的にした	5	4	3	2	1	0

【独自設定項目】

(20)	5	4	3	2	1	0
------	---	---	---	---	---	---

IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。

V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。

ご協力ありがとうございました

K9574C 110kg



ご意見・ご要望を
お聞かせください

学生による授業評価アンケート

京都ノートルダム女子大学
2016年度

【注意事項】

- ・複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接、担当教員が見ることはありません。

I. あなたの学年の番号にマークしてください。

- ① 1年次生 ② 2年次生 ③ 3年次生 ④ 4年次生 ⑤ 科目等履修生 ⑥ その他

II. あなたの所属学部(学科)の番号にマークしてください。

- ① 人間文化(英語英文) ② 人間文化(人間文化) ③ 生活福祉文化 ④ 心理 ⑤ 科目等履修生 ⑥ その他

III. この科目(授業)について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、マークしてください。

【授業の状況】

	5 そう思う	4 どちらかと言えば そう思う	3 どちらとも 言えない	2 どちらかと言えば そう思わない	1 そう 思わない	0 該当 しない
(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	5	4	3	2	1	0
(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	5	4	3	2	1	0
(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた	5	4	3	2	1	0
(4) 教員の話し方は、わかりやすかった	5	4	3	2	1	0
(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	5	4	3	2	1	0
(6) 授業は興味関心の持てる内容であった	5	4	3	2	1	0
(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった	5	4	3	2	1	0

【学習の状況】

(8) 授業の内容は理解できた	5	4	3	2	1	0
(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	5	4	3	2	1	0
(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	5 (2時間以上)	4 (1~2時間未満)	3 (30分~1時間未満)	2 (30分未満)	1 (0時間)	0

【学習成果(社会人基礎力)】

本学では、卒業時までまでに養成したい力として「社会人基礎力」を定め、これを具現化する力として6つの力を設定し、各授業科目に位置づけています。

(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	5	4	3	2	1	0

【授業形態項目(卒業研究)】

(17) 卒業研究の作成過程・出来栄に満足している	5	4	3	2	1	0
(18) 指導教員から適切な指導を受けた	5	4	3	2	1	0
(19) 卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった	5	4	3	2	1	0

【独自設定項目】

(20)	5	4	3	2	1	0
------	---	---	---	---	---	---

IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。

.....

.....

.....

V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました

K9574C 110kg

Ⅱ 2016（平成28）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

今後の教育内容の改善、また充実した教育プログラムの維持・構築に役立てることを目的とする。本学大学院の教育の質的向上を目指して、全学的規模で「大学院生による教育評価アンケート」を実施した。

2. 実施方法

1) 実施期間

2016（平成28）年12月9日（金）～2017（平成29）年2月6日（月）に実施した。

2) 調査対象者

調査対象者：全研究科の大学院生

3) 在籍者数・回収数・回収率

研究科	専攻科	在籍者数 (名)	回答者数 (名)	回答率
人間文化研究科	応用英語専攻	2	0	0.0%
	人間文化専攻	2	2	100.0%
	生活福祉文化専攻	4	2	50.0%
	研究科計	8	4	50.0%
心理学研究科	発達・学校心理学専攻	3	2	66.7%
	臨床心理学専攻	15	11	73.3%
	研究科計	18	13	72.2%
計		26	17	65.3%

4) 調査内容

最初に、回答者の属性（学年・所属研究科（専攻））を尋ね、次に当該科目に関する以下の項目について尋ねた。設問は選択式10問、自由記述2問であった。

調査項目

(1) 評価項目

選択式

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている
- ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである
- ③ 授業時間割はバランスよく配置されている
- ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている
- ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている

- ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている
- ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている
- ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている
- ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている
- ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

自由記述

- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください。
- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください。

(2) 回答形式

選択式設問①～⑩については、以下の5件法で回答させた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない

5) 実施手順

人間文化研究科応用英語専攻および人間文化専攻では、調査票を指導教員が大学院生に個別に配付した。人間文化研究科生活福祉文化専攻および心理学研究科については、修士論文発表会時に配付した。回収は各大学院生が学事課に提出した。

6) 結果の集計

調査票の印刷および集計処理は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

7) 結果通知と集計結果の配付

2017（平成29）年3月に、全学および、研究科／専攻ごとの集計結果を専任教員に配付した。また、事務局の各部局へは、2017（平成29）年4月の課長会において配付した。

「大学院生による教育評価アンケート」

3.集計結果

(1) 【全研究科】

■専攻

回答者数	17
------	----

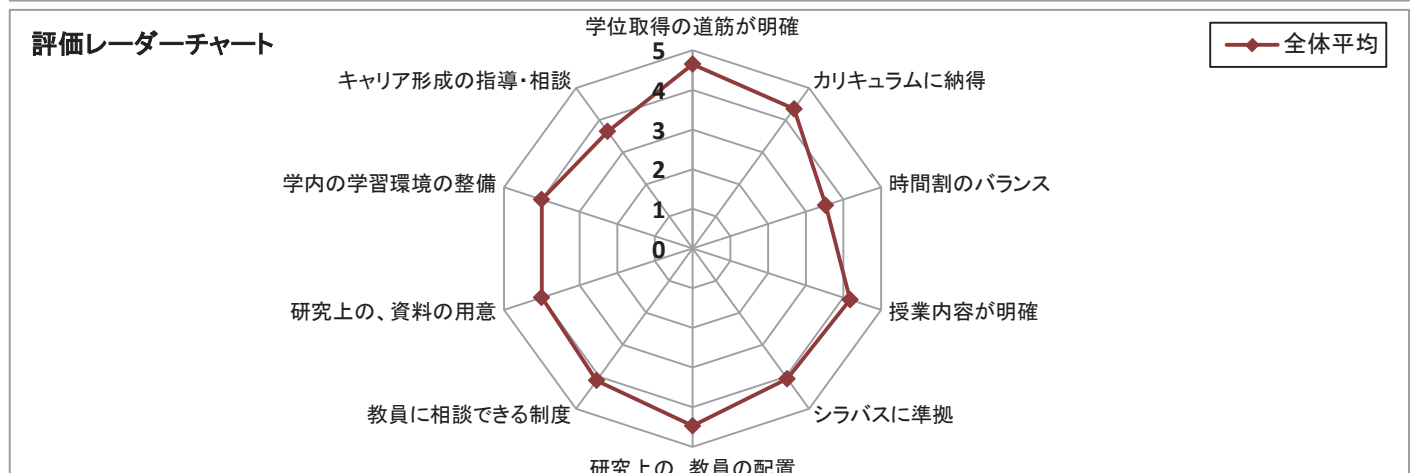
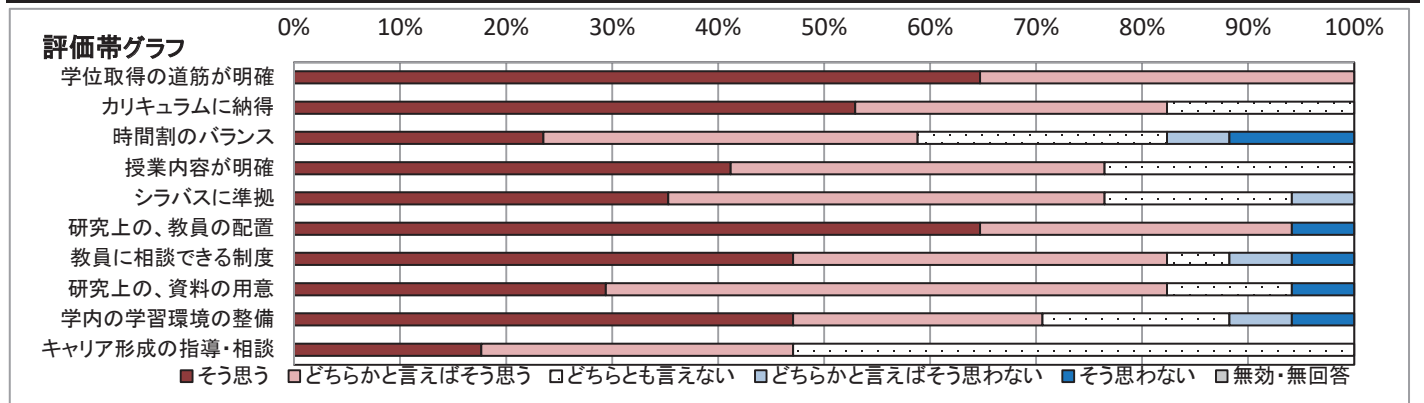
応用英語専攻		生活福祉文化専攻		人間文化専攻		発達・学校心理学専攻		臨床心理学専攻		心理学専攻		科目等履修生		計
0	0.0%	2	11.8%	2	11.8%	2	11.8%	11	64.7%	0	0.0%	0	0.0%	17

■学年

修士課程(M1)		修士課程(M2)		博士前期課程(M1)		博士前期課程(M2)		博士後期課程(D1)		博士後期課程(D2)		博士後期課程(D3)		計
0	0.0%	8	47.1%	4	23.5%	5	29.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.6	11 64.7%	6 35.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	17	0	0.478
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.4	9 52.9%	5 29.4%	3 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	17	0	0.762
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	4 23.5%	6 35.3%	4 23.5%	1 5.9%	2 11.8%	17	0	1.242
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	7 41.2%	6 35.3%	4 23.5%	0 0.0%	0 0.0%	17	0	0.785
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	6 35.3%	7 41.2%	3 17.6%	1 5.9%	0 0.0%	17	0	0.872
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.5	11 64.7%	5 29.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.9%	17	0	0.977
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	8 47.1%	6 35.3%	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%	17	0	1.131
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	4.0	5 29.4%	9 52.9%	2 11.8%	0 0.0%	1 5.9%	17	0	0.970
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.0	8 47.1%	4 23.5%	3 17.6%	1 5.9%	1 5.9%	17	0	1.188
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.6	3 17.6%	5 29.4%	9 52.9%	0 0.0%	0 0.0%	17	0	0.762



「大学院生による教育評価アンケート」

3.集計結果

(2) 【研究科・専攻別】

■研究科

回答者数 4

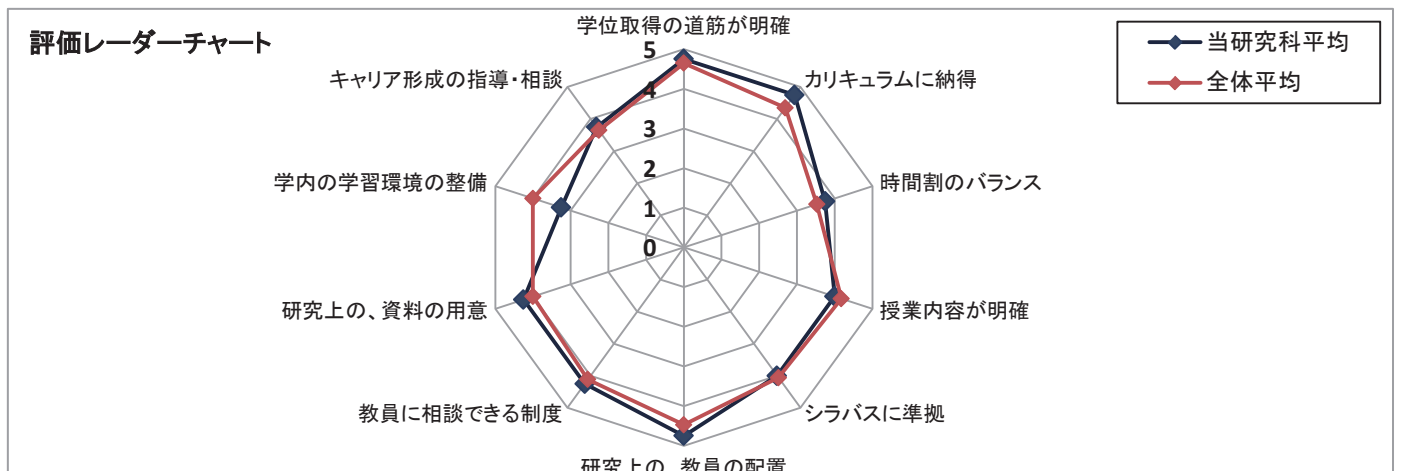
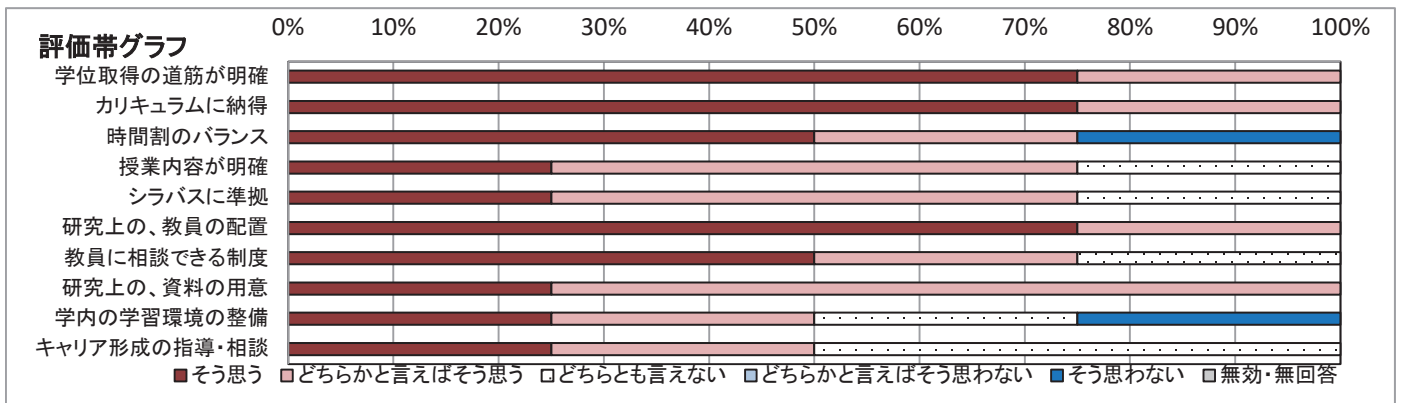
人間文化研究科

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当研究科平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.6	4.8	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.433
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.4	4.8	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.433
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	3.8	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	4	0	1.639
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.0	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.707
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	4.0	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.707
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.5	4.8	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.433
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.3	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.829
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	4.0	4.3	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.433
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.0	3.3	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	4	0	1.479
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.6	3.8	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.829



■専攻

回答者数

2

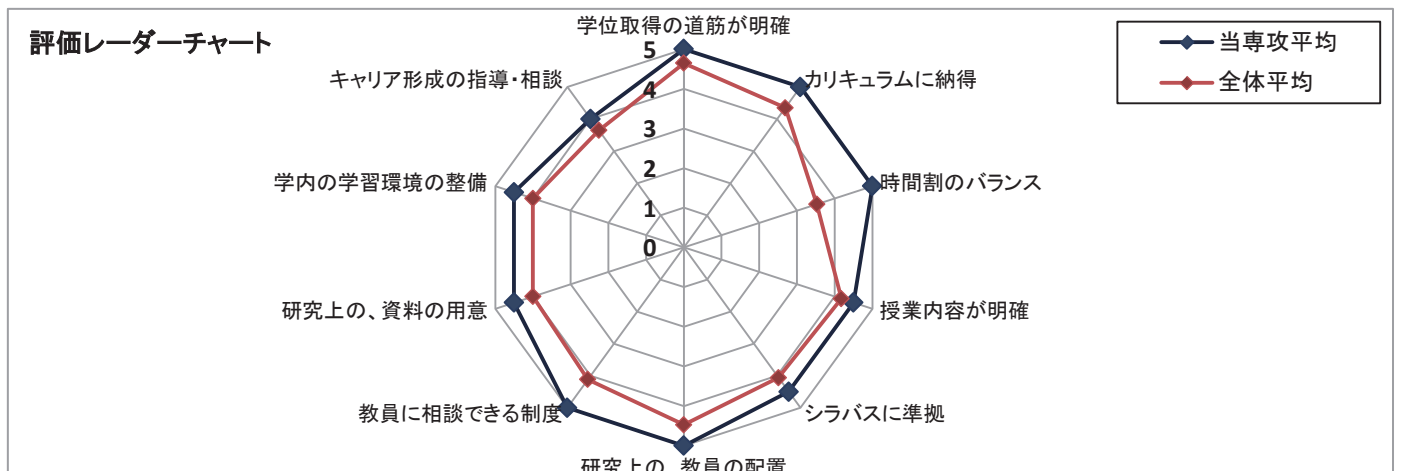
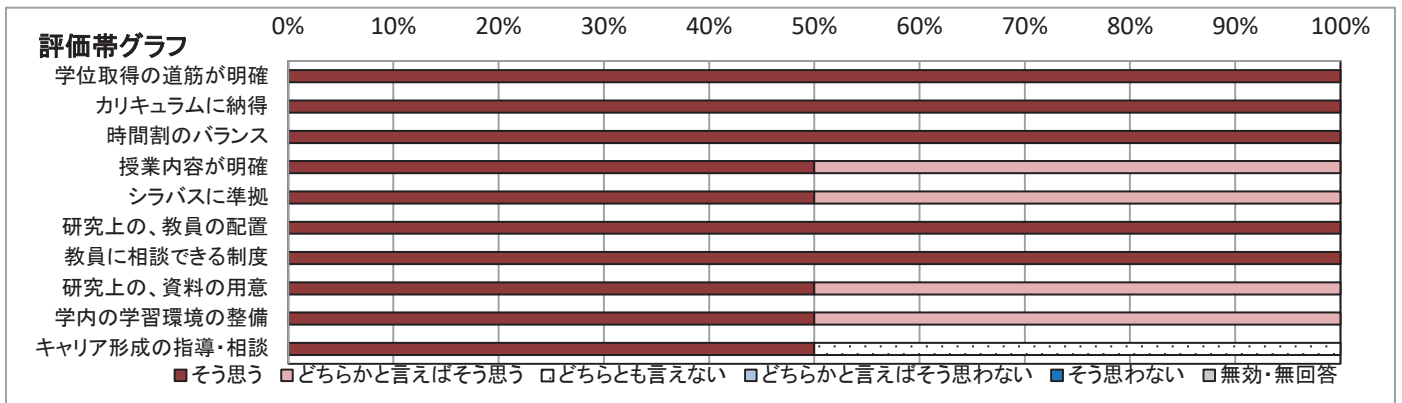
人間文化専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計	
0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	2

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.6	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.4	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.5	1	1	0	0	0	2	0	0.500
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	4.5	1	1	0	0	0	2	0	0.500
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.5	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	4.0	4.5	1	1	0	0	0	2	0	0.500
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.0	4.5	1	1	0	0	0	2	0	0.500
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.6	4.0	1	0	1	0	0	2	0	1.000



■専攻

回答者数 2

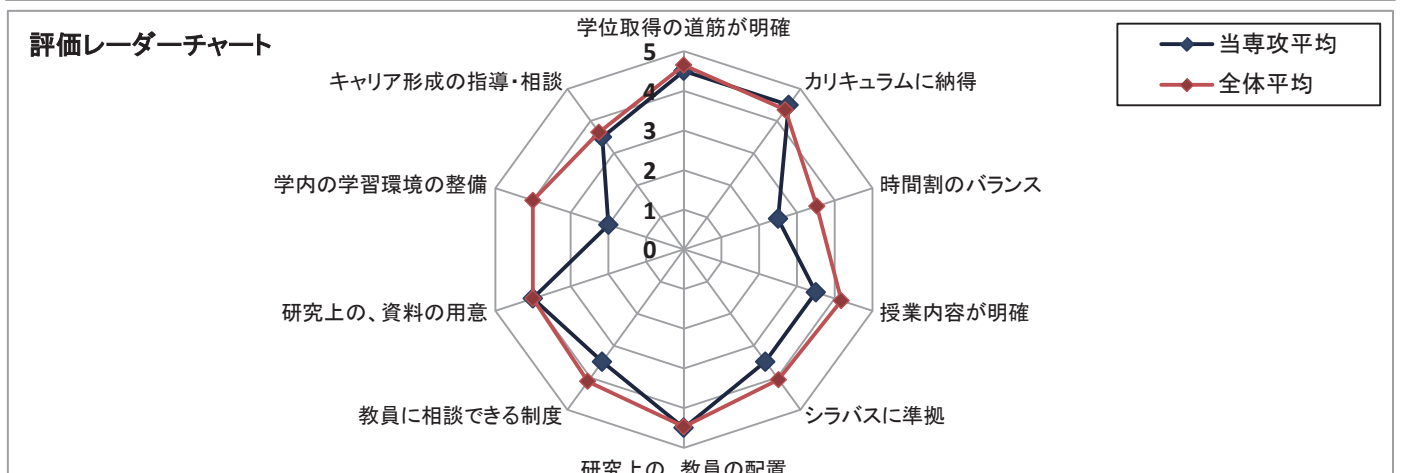
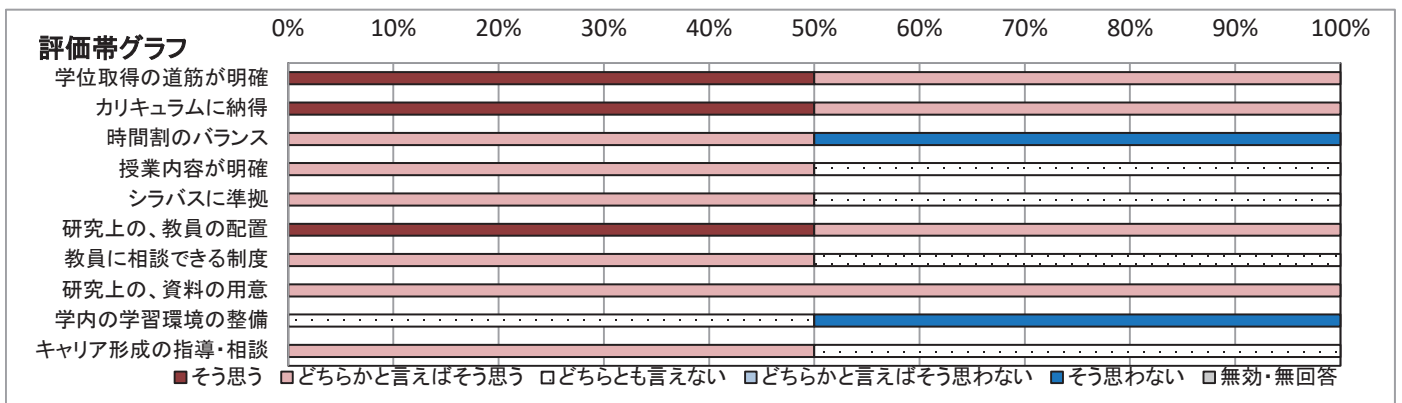
生活福祉文化専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.6	4.5	1	1	0	0	0	2	0	0.500
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.4	4.5	1	1	0	0	0	2	0	0.500
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	2.5	0	1	0	0	1	2	0	1.500
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	3.5	0	1	1	0	0	2	0	0.500
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	3.5	0	1	1	0	0	2	0	0.500
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.5	4.5	1	1	0	0	0	2	0	0.500
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	3.5	0	1	1	0	0	2	0	0.500
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	4.0	4.0	0	2	0	0	0	2	0	0.000
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.0	2.0	0	0	1	0	1	2	0	1.000
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.6	3.5	0	1	1	0	0	2	0	0.500



■研究科

回答者数 13

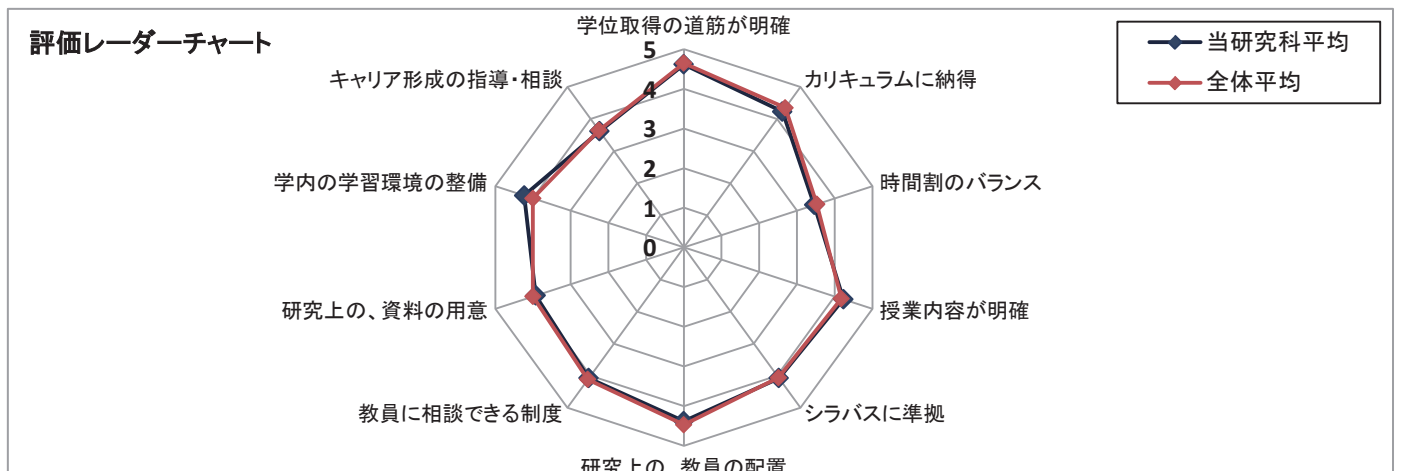
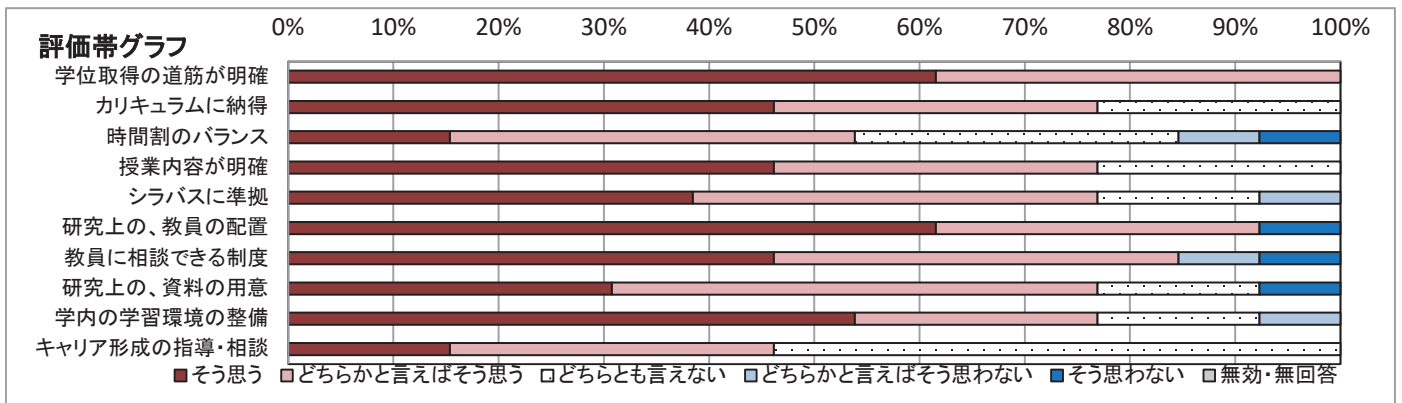
心理学研究科

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
0 0.0%	4 30.8%	4 30.8%	5 38.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当研究科平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.6	4.6	8 61.5%	5 38.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.487
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.4	4.2	6 46.2%	4 30.8%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.799
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	3.5	2 15.4%	5 38.5%	4 30.8%	1 7.7%	1 7.7%	13	0	1.082
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.2	6 46.2%	4 30.8%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.799
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	4.1	5 38.5%	5 38.5%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.917
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.5	4.4	8 61.5%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	13	0	1.077
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.1	6 46.2%	5 38.5%	0 0.0%	1 7.7%	1 7.7%	13	0	1.206
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	4.0	3.9	4 30.8%	6 46.2%	2 15.4%	0 0.0%	1 7.7%	13	0	1.071
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.0	4.2	7 53.8%	3 23.1%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.973
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.6	3.6	2 15.4%	4 30.8%	7 53.8%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.738



■専攻

回答者数 2

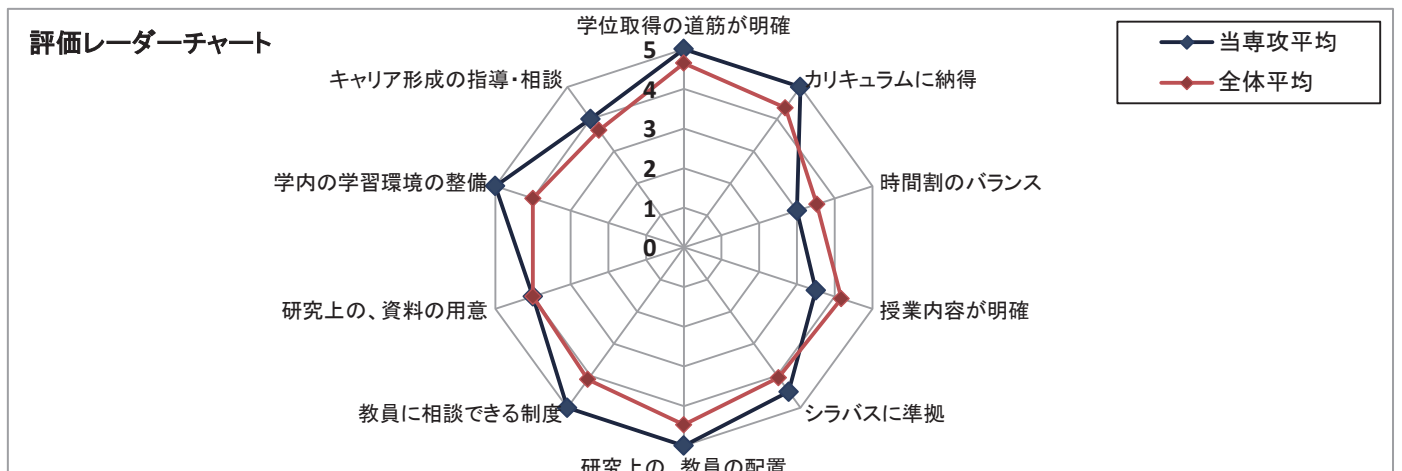
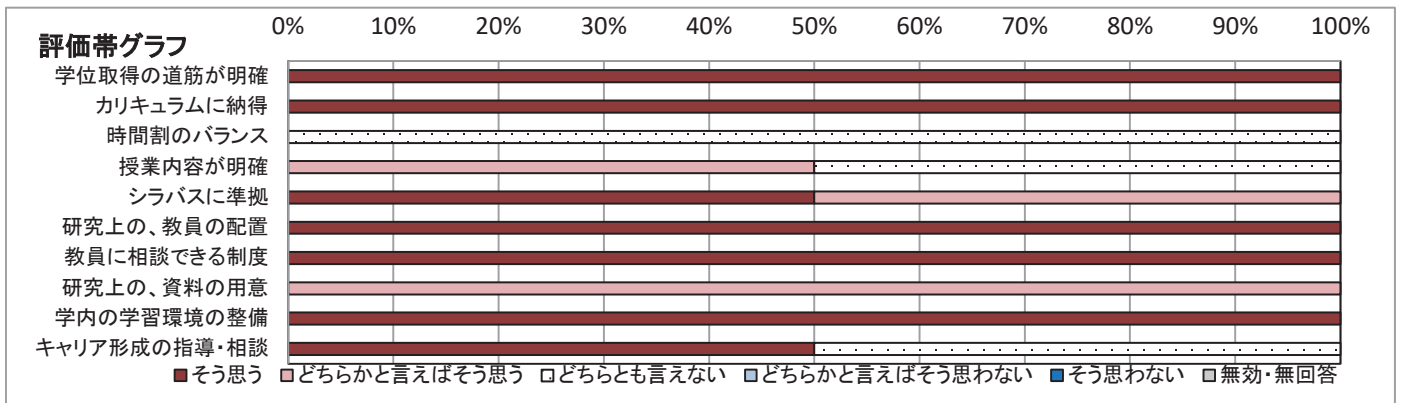
発達・学校心理学専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計					
0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	2

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.6	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.4	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	3.0	0	0	2	0	0	2	0	0.000
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	3.5	0	1	1	0	0	2	0	0.500
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	4.5	1	1	0	0	0	2	0	0.500
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.5	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	4.0	4.0	0	2	0	0	0	2	0	0.000
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.0	5.0	2	0	0	0	0	2	0	0.000
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.6	4.0	1	0	1	0	0	2	0	1.000



■専攻

回答者数 11

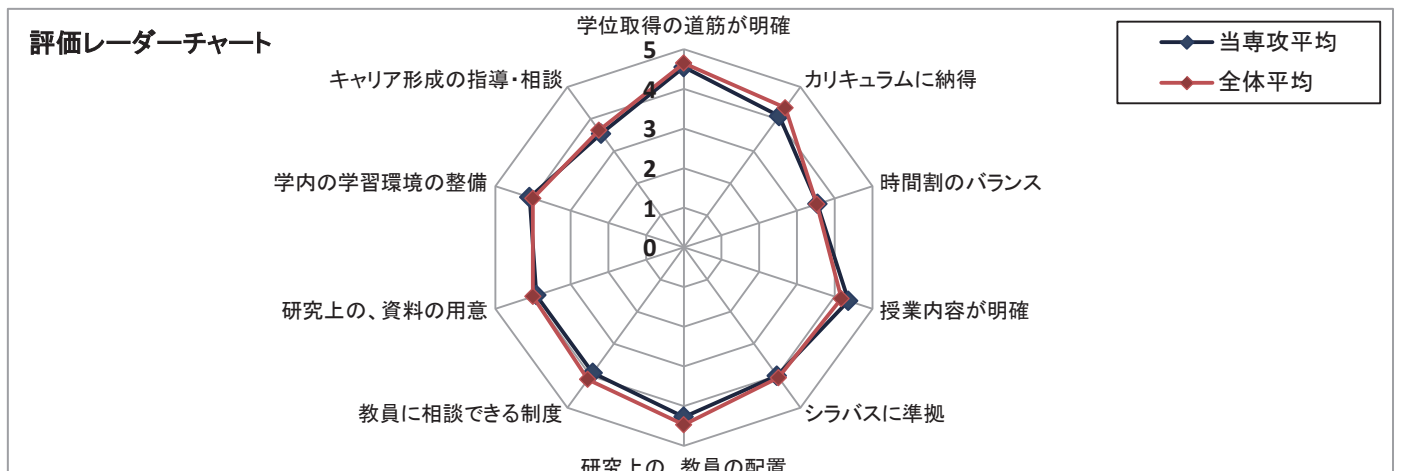
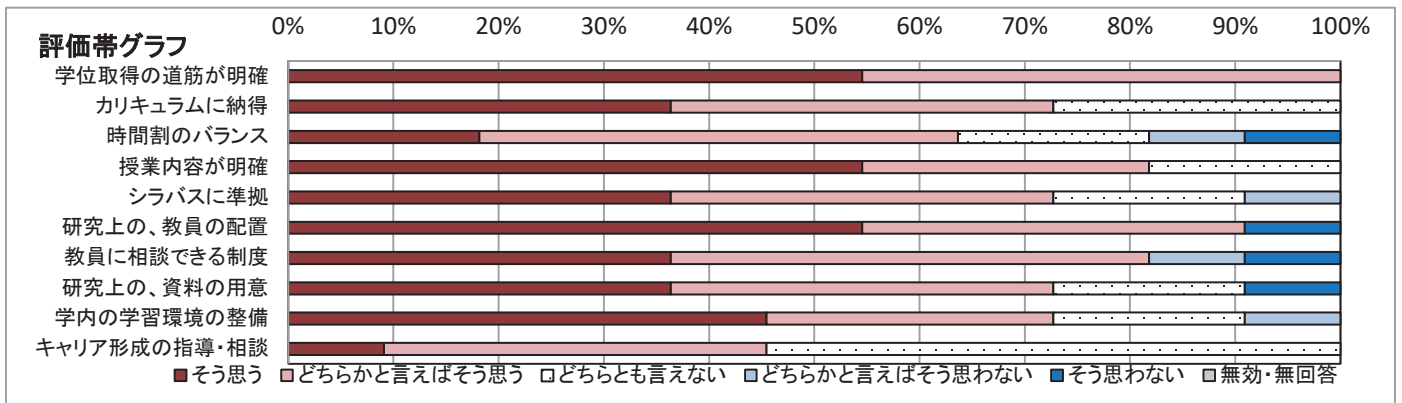
臨床心理学専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
0 0.0%	4 36.4%	3 27.3%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.6	4.5	6 54.5%	5 45.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	0	0.498
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.4	4.1	4 36.4%	4 36.4%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	11	0	0.793
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.5	3.5	2 18.2%	5 45.5%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	11	0	1.157
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.4	6 54.5%	3 27.3%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	11	0	0.771
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	4.0	4 36.4%	4 36.4%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	11	0	0.953
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.5	4.3	6 54.5%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	11	0	1.135
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	3.9	4 36.4%	5 45.5%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	11	0	1.240
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	4.0	3.9	4 36.4%	4 36.4%	2 18.2%	0 0.0%	1 9.1%	11	0	1.164
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.0	4.1	5 45.5%	3 27.3%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	11	0	0.996
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.6	3.5	1 9.1%	4 36.4%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	11	0	0.656



4. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

全体のアンケート結果の選択式設問では①「学位取得のための道筋が明確に示されている」が全体平均点が最も高く 4.6 となっている。続いて⑥「研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている」が 4.5 を示している。②「提示されたカリキュラムは納得のいくものである」が 4.4、④「提供される科目の授業内容が明確に示されている」が 4.2、⑤「個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている」が 4.1、⑦「オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている」が同じく 4.1 である。これらの回答結果から、カリキュラムや授業内容、指導体制に関して、大学院生は比較的満足していることが明らかになった。

他方、③「授業時間割はバランスよく配置されている」の全体平均点は 3.5 で、設問の中では最低の数値となり、「2. どちらかと言えばそう思わない」と「1. そう思わない」が合計で 17.7%で、「3. どちらとも言えない」23.5%と合計すると 40%を超える。⑩「キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている」は 3.6 で、昨年度の 3.3 と比較して、0.3 ポイント上昇しており、「2. どちらかと言えばそう思わない」と「1. そう思わない」は 0%であり、改善されてはきているが、「3. どちらとも言えない」は 50%を超えている。

自由記述については、「良かった点」として、指導が丁寧で、個別での対応が行き届いている、先生に相談しやすいなど、指導体制が整っていることがあげられている。「改善すべき点」として、大学のメールサーバが通常とは異なり不調で研究者とのやりとりに支障があったことや、図書館の閉館が多く、論文作成に不便であったなど、学習環境面の問題と、授業が週のうち集中する日があることや、夏季集中講座のスケジュールが厳しかったことなどの授業時間割のバランスの問題、教育関連の実習では雑務が多く負担が大きいなど、実習の内容の問題などが記載されていた。

授業時間割の配置のバランスと、キャリア形成に関する指導、学習環境の整備に改善の余地があることが明らかになった。2014 年度および 2015 年度のアンケート結果では、研究のための図書・関連資料の不備が課題であったため全学的に改善策を議論し実行してきた結果、本年度は昨年度と比較して 1.1 ポイント上昇しており、大幅に改善されてきていると考えられる。授業時間のバランスに関しては、昨年度と同じような結果が出ており遺憾である。キャリア形成に関しては、昨年度と比較して満足度が上昇してはいるが、さらに改善を続ける必要がある。来年度も引き続き、大学全体、研究科内、専攻内で改善策を議論し、改善策を実行する必要がある。授業時間割のバランスを改善し、学びやすい環境を整え、修了後の進路についてより良い指導を行うことによって、本学の大学院教育の充実を図ってゆきたい。

文責：中里 郁子（人間文化学部 人間文化学科 FD 委員）

このアンケートは本学大学院の教育内容の改善を目的として実施します。
 特定の授業科目についてではなく、所属する研究科（専攻）の教育内容や教育環境について評価してください。
 成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して、率直に答えてください。

I. あなたの学年の番号を記入してください。（※科目等履修生の方は学年記入不要です。）

回答欄

1. 修士課程(M1) 2. 修士課程(M2) 3. 博士前期課程(M1) 4. 博士前期課程(M2)
 5. 博士後期課程(D1) 6. 博士後期課程(D2) 7. 博士後期課程(D3)

II. あなたの専攻の番号を記入してください。

回答欄

- 【人間文化研究科】 1. 応用英語専攻 2. 生活福祉文化専攻 3. 人間文化専攻
 【心理学研究科】 4. 発達・学校心理学専攻 5. 臨床心理学専攻 6. 心理学専攻 7. 科目等履修生

III. 以下の設問について、最もあてはまる回答番号を1つ選び、記入してください。

- 5 : そう思う 4 : どちらかと言えばそう思う 3 : どちらとも言えない
 2 : どちらかと言えばそう思わない 1 : そう思わない

回答欄

教育内容や教育環境について

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている
 ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである
 ③ 授業時間割はバランスよく配置されている
 ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている
 ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている
 ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている
 ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている
 ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている
 ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている
 ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

IV. あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください（自由記述）。

V. あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください（自由記述）。

Ⅲ 2016（平成28）年度 「FD研修会」実施報告

1. 実施概要

2016（平成28）年度はFD研修会として3つの研修会を実施した。研修会の形式は講演会やグループディスカッション形式等を取り混ぜ、専任教員は、希望する1つ以上の研修会に参加した。今年度の研修会の内容等は以下のとおりである。

1. 内容・テーマ：「基礎学力に不安を抱える学生にどう向き合うか？－教職協働による学習支援の実践例－」

日時：2016（平成28）年6月16日（木） 16:50～18:20

場所：ユージニア館3階 アクティブラーニングスペース

講師：京都三大学教養教育研究・推進機構 児玉 英明 特任准教授

コーディネーター：人間文化学科 中里 郁子講師

参加者：28名（教員22名 職員6名）

概要：講演では、基礎学力に不安を抱える学生への学習支援について、講師の実践例を交えてお話しいただいた。退学率をはじめとする教育情報が公開されるなか、大学は実施している学習支援策について発信すべきであること、受け入れた学生の教育に責任を持つ姿勢を示すべきであると強調された。講演後のワークショップでは、参加者がグループに分かれて講演の感想を出し合い、グループから出た質問に対して講師のご意見をうかがった。

2. テーマ：「本学の情報機器を利用した授業方法」

日時：2016（平成28）年6月28日（火） 16:50～18:20

場所：ユージニア館3階 アクティブラーニングスペース
ユージニア館2階 編集工房

講師 心理学部 神月 紀輔 教授、システム管理課職員

コーディネーター：英語英文学科 大川 淳講師

参加者：36名（教員30名、職員6名）

概要：前半は、情報機器の教育利用について心理学部 神月紀輔教授による講演が行われた。講演の途中には、情報機器を用いた授業の実例として、心理学部小川博士講師担当の授業の映像を、小川講師とコーディネーターの大川講師の解説をまじえて視聴した。後半は、参加者は2つのグループに分かれ、神月教授による講習「Moodleの活用方法」または、システム管理課職員による講習「基礎的な情報機器の利用方法」のいずれかに参加した。

3. テーマ：「授業以外の学修時間の確保について」

日時：2016（平成28）年7月8日（金） 16:50～18:20

場所：ユージニア館3階大講義室

説明：教務課 小林 忍 課長

コーディネーター：各学科FD委員

参加者：26名（教員23名、職員3名）

概要：はじめに、小林忍教務課長による、学修時間の確保と単位の実質化についての説明『学修時間の確保』なぜ必要？－「教育の質的転換」の始点として－』が行われた。続いて、参加者は所属学科ごとのグループに分かれ、2つのテーマ（テーマ1「授業以外の学修時間の確保について」、テーマ2「今後の授業評価アンケートのあり方について」）についてディスカッションを行った。

参加者数

日程	テーマ	副学 長	人間文化学部		生活福 祉文化 学部	心理 学部	職員	計
			英語英 文学科	人間文 化学科				
6月16日(木)	「基礎学力に不安を抱える学生にどう向き合うか？－教職協働による学習支援の実践例－」	0	2	5	10	5	6	28
6月28日(火)	「本学の情報機器を利用した授業方法」	1	5	5	7	12	6	36
7月8日(金)	「授業以外の学修時間の確保について」	0	5	4	8	6	3	26
参加者数(延べ)合計		1	12	14	25	23	15	90

(在籍教員数：67)

2. 現状と今後の課題

(1) 「基礎学力に不安を抱える学生にどう向き合うか？－教職協働による学習支援の実践例－」

京都三大学教養教育研究・推進機構 児玉英明 特任准教授をお迎えして、「基礎学力に不安を抱える学生にどう向き合うか？－教職協働による学習支援の実践例－」というテーマで講演をしていただいた。28名の参加者があり、参加者アンケートでは52%が「大変有意義であった」、そして33%が「有意義であった」と回答し、満足度の高い研修会となった。本学においても基礎学力に不安がある学生がおり、単位不足のために留年する学生がいる現状の中で、きめ細やかな指導が必要であることを実感した。

後半のワークショップでは、講師自身の経験からいかに基礎学力の学習支援が行われてきたかを伺い、キャリア教育においていかに基礎学力の向上の対策を取り入れるかなどについても意見が出され、活発な意見交換の場となった。本学の現状も話し合われ、教職員が一丸となって、学習支援に取り組む必要があると再確認された。

(2) 「本学の情報機器を利用した授業方法」

心理学部 神月紀輔教授より、情報機器の教育利用についての講演を行っていただき、さらに心理学部小川博士講師担当の情報機器を用いた授業の映像を視聴した。その後、「Moodleの活用方法」または「基礎的な情報機器の利用方法」の講習に参加して、実際に情報機器を用いて、どのような授業

展開の可能性があるかを学んだ。36名の参加者があり、参加アンケートでは48.1%が「大変有意義であった」、そして25.9%が「有意義であった」と回答し、満足度の高い研修会となった。

「Moodleの活用方法」の参加者のアンケートによると、普段情報機器を使いこなせていないと考えていたが、この講習でいかに活用できるかがよく理解できたという意見や、VHSのデータ化の方法、Moodleの使い方などを今後実際に活かしてゆきたいという意見が出ており、情報機器を今後さらに活用するよう刺激を与えられた。「基礎的な情報機器の利用方法」の参加者のアンケートでは、書画カメラの使い方、ストップウォッチの使用、スキャナーの活用など、様々な機器を組み合わせて使用されており、授業の組み立ての中でいかに工夫できるかが理解できたという意見が出された。今後、各教員がこの研修で学んだことを各自の授業に取り入れて、有効に情報機器を使用して、より良い授業にしてゆくことが必要である。

（3）「授業以外の学修時間の確保について」

教務課小林忍課長より、学修時間の確保と単位の実質化についての説明を受け、各学科ごとに参加者が話し合って、いかにして授業以外の学修時間の確保できるかについて解決策を考え、全体会で発表するという形式で行われ、26名の参加者があった。全体的に学生の学修時間が不足する傾向にあることが再確認され、各授業でそのために工夫する必要性が話し合われた。参加者アンケートによれば、学部の教員それぞれが、学修時間の創出について工夫していることがわかったということである。また、学修時間を確保するにはどうしたらよいか、担当している授業で改善すべきことを考えることができ、各学科の現状や工夫している点が分かり勉強になったという意見が出されている。現状では、授業によっては学修時間が確保され易い科目もあるが、確保されていない科目も少なからずあるなど問題があるが、それぞれの授業で工夫する必要があることが再確認され、今後、話し合われたことをもとに改善することが重要である。

今年度の三回のFD研修会を振り返って、本学の教育の中で問題とされる課題に向き合うことができた。基礎学力に不安を抱えている学生や、単位取得が困難で留年する学生がいる現状で、いかにきめ細かく丁寧に指導をして不安を解消させて、充実した学生生活を送れるように支援していく取り組みを行うかが重要である。また、情報機器を活用して授業を活性化させたり、授業外でも学修時間が確保されるよう、様々な工夫が必要であることが再確認された。これらの課題の解決のため、今年度の研修を生かし、具体的な方策を実践して成果をあげていくことができるよう期待したい。

文責：中里 郁子（人間文化学部 人間文化学科 FD委員）

IV 2016（平成 28）年度「オープンクラス」実施報告

1. 実施概要

オープンクラスによる相互授業参観は、教員同士が互いの授業を公開し授業内容や方法について検討することによって、授業方法に関する知識や技能を共有できるなどの利点がある。本学では2011（平成 23）年度よりオープンクラスを実施している。

2016（平成 28）年度は前期 2 週間、後期 3 週間のオープンクラス・ウィークを実施した。オープンクラス・ウィーク期間中は、原則として全ての授業を、本学の教職員と学生を対象に公開した。授業参観者から提出されたコメントシートの内容は、授業担当教員へ伝えられた。

2016（平成 28）年度「オープンクラス」実施状況

オープンクラス・ウィーク実施期間	参観者コメントシート提出数
6月13日(月)～6月25日(土)	48
10月24日(月)～11月12日(土)	32

また、オープンクラス・ウィーク期間外に公開の申し出があった下表の授業について、オープンクラスが実施された。テーマはいずれも、「スマホを使ったアンケートシステム (respon) によるアクティブ・ラーニングの試行」で、下表 3. および 4. の授業後には、授業担当教員と参観した教職員による懇談会が行われた。

	実施日	科目名	担当教員
1	1月18日(水)	「家庭科教育法 II」	生活福祉文化学部 加藤佐千子教授
2	1月18日(水)	「家庭科教育法 IV」	生活福祉文化学部 加藤佐千子教授
3	1月19日(木)	「理科指導法」	心理学部 小川博士講師
4	1月20日(金)	「ライフステージと食生活」	生活福祉文化学部 加藤佐千子教授

2. 現状と今後の課題

本年度のオープンクラスは、参観者コメントシートの提出が前期 48、後期 32 であり、昨年とほぼ同数であったが、実際には一人の参加者が複数の授業を参観している場合があり、実参加者数はコメントシートの数よりもかなり少なかった。コメントシート未提出者があることを勘案してもオープンクラスの参加者は専任教員については約 4 割にとどまっており、職員についてはさらに少数である。また、非常勤の教員に関しては、自身の授業への参観はあっても、他の授業を参観するといったことはほとんどないよう見受けられた。

このように全学を挙げて活発に授業参観が行われているとはいえない現状ではあるが、参観者のコメントシートに書かれている意見の多くには、他の授業、とくに専門に近い授業を参観することにより自身の授業を振り返る機会となったと記されており、オープンクラスの取り組みそのものは授業改善に向けて一定の成果を上げていると評価できる。また、オープンクラス期間中は、教授者でも受講者でもない第三者の客観的な目が授業中の教室をチェックする好機であり、コメントシートに書かれた設備の不備についての指摘を関係部署へ伝達することで、教室環境の向上に繋がるといった効果も期待できる。

一方で、オープンクラスも開始されてから6年目となった本年度においては、マンネリ化したという意見もでており、実施方法の再検討が求められる時期に来ているといえる。とくに後期は例年、実施期間が前期より長いにもかかわらず参加者数が少ない傾向にある。これについては、実施時期が実習訪問や卒論提出前の学生指導に多くの時間を要する時期と重なることが原因のひとつと推察されることから、今後はより多くの教員が参加しやすいよう実施時期を考慮する必要があるだろう。

また、今年度は通常のオープンクラスに加えて、オープンクラス・ウィーク期間外の1月に、公開の申し出があった授業について別にオープンクラスを実施した。このオープンクラスの趣旨は「スマホを使ったアンケートシステム (respon) によるアクティブ・ラーニング」の紹介であり、本学が導入を検討しているアンケートシステム (respon) について、これを先に試行していた2名の教員による公開実践が行われた。

アクティブ・ラーニングの取り組みについては、本学においても今までに多くの研修会が開かれてはいるものの、今年度のオープンクラスの参加者から提出されたコメントの中にアクティブ・ラーニングに関する記載が非常に少なかったことから実際には日々の授業の中に取り入れることが難しいという現状がうかがえる。そのため大学全体での取り組みの必要性を提案する意見も寄せられていた。そこで、このオープンクラスにおいては、respon を用いた授業の単なる公開にとどまらず、初の試みとして授業担当教員と参観者による懇談会も実施し、実際に活用した体験を生で聞くことのできる時間を作り、好評を得た。それぞれの教員がアクティブ・ラーニングのツールのひとつとしてこのような新しいシステムを活用することは個々の授業改善の一助となると思われるため今回の授業公開には大きな意義があったといえるが、さらにそれだけでなく相互の直接的な意見交換の場として活用することで、オープンクラスの役割も広がる可能性があることが示された。

今後のオープンクラスの有り様としては、授業公開する側と参観する側のアクティブな情報交流の機会と位置づけ、コメントシートだけでなくリアルタイムでの意見交換の仕組み作りなども検討していくべきであろう。

文責:藤原 智子 (生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 FD 委員)

V 2016 (平成 28) 年度 全学 FD 教員研修会実施報告

1. 実施概要

今回は、京都外国語大学マルチメディア教育研究センター教授 村上正行先生を講師に迎え、途中、参加者間での意見交換をまじえた研修会を実施した。講演では、学生の変化について「デジタルネイティブ世代」である現在の学生の状況が、具体的な事例をまじえて紹介され、これらを理解したうえでアクティブ・ラーニングをはじめとする授業設計を行うことが重要であると指摘された。

また、大学におけるFDのありかたについても触れられ、伝達講習で大学教育についての一般的な知識を共有したうえで、相互研修で自大学の文脈に根づいた取り組みを共有するのが有効であるとの提案がなされた。

日 時：2017 (平成 29) 年 2 月 9 日(水) 10:00 ~ 12:00

場 所：ユージニア館 大講義室

講 師：京都外国語大学大学マルチメディア教育研究センター 村上 正行教授

タイトル：「現代の学生気質を踏まえたアクティブ・ラーニングを考える」

コーディネーター：FD委員会（向山委員長、大川委員、中里委員、藤原委員）

出席者数：

副学長	人間文化学部		生活福祉 文化学部	心理 学部	教員 出席者	教員 現員数	参加率	職員
	英語英文	人間文化						
1	8	7	14	13	43	67	64.2%	3

2. 現状と今後の課題

本年度の全学 FD 教員研修会にはインストラクショナルデザイン理論や FD の企画・運営に詳しい講師を招聘し、現在の学生気質の分析からアクティブ・ラーニングの方法論など幅広く授業設計に関わる内容の研修を実施した。出席者数は上記の表に示すとおり専任教員の約 3 分の 2 であり、昨年の 78%には及ばなかったもののほぼ例年通りとなった。なお、事前に届け出た欠席者については昨年同様、3 月に開催される第 22 回 FD フォーラムへの出席を本研修会への出席の代替とした。

研修では冒頭、社会の IT 化が加速する中で急速に変容する学生気質、とくに「デジタルネイティブ」についてその実態が紹介された。続いて、参加者間で学生気質についての感想や、意見、授業での自身の経験等について意見交換を行った。さらに協同学習の技法、アクティブ・ラーニング、LMS などの ICT 環境の導入状況など、豊富な事例や多くの文献の提示とともにインストラクショナルデザインに関するレクチャーが行われた。また、参加者間でそれぞれの授業で工夫している点や困っていること、悩んでいること、今後取り組んでみたいことなどをフランクに語り合う時間も設けられ、それぞれ数名のグループに分かれて、学部や学科を超えて活発な話し合いが行われた。

研修会の参加者からは、前半の現代の学生気質、特にデジタルネイティブについての話題については「現代の学生の背景を認識することができた」「学生理解が重要だと感じた」といった感想が寄せられた。また、後半のインストラクショナルデザインについては「アクティブ・ラーニングの視点から授業改善を行う上での現状と課題について研修できた」「ICT 活用等他大学の取り組みを知ることができた」などのコメントが得られた。さらに参加者間での話し合いについては、「他の専門領域の取り組みを知ることができた」「日頃感じていることや疑問に思っていることが他の教員と共有できた」ことで「自分の振り返りにつながる時間になった」といったコメントが得られ、今回の研修に対

して8割の参加者が「大変有意義であった」または「有意義であった」と回答していた。一方で、「あまり有意義でなかった」「有意義でなかった」との回答が合わせて1割弱あり、その理由として内容が多岐に渡っていたため教育実践の具体例に乏しかったことなどが挙げられていた。

今回の研修会では講師よりFD研修会の企画についても言及があったが、それによると「外部講師などによる伝達講習で大学教育についての一般的な知識を共有したうえで、学内教員による事例発表、議論を組み合わせた相互研修を行い、自大学の文脈に根づいた取り組みを共有する」のが有効であるとのことである。実際、今回の研修会の中の数名のグループ討論においても学内の教員同士でそれぞれの授業の工夫や悩みについて白熱した話し合いが行われていた。これをさらに発展させて本学の教員による事例発表などを積極的かつ多角的に実施し、情報交換を行うことで、問題意識をより高次元で共有することが可能となり、FD研修会が様々な解決の方法を検討するための糸口を提供できる場となりうるかもしれない。今後のFD研修会のあり方の課題としたい。

研修会参加者のアンケート結果では、次年度のFD活動において、取り組みを希望する内容については「学力不足学生への学習支援」が最も多く、「リメディアルの実践」という具体的な要望も寄せられていた。その他比較的多数の希望があった項目が「ルーブリック評価」「反転授業」および「アクティブ・ラーニング」であった。教育力向上の取り組みの促進に真に資する全学FD教員研修会とするためには、これらの意見を参考に、本学の文脈に合わせてカスタマイズした企画の検討が求められているといえよう。

文責:藤原 智子 (生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 FD 委員)

FD 委員会構成員

委員長	向山	泰代	(心理学部 心理学科)
委員	大川	淳	(人間文化学部 英語英文学科)
委員	中里	郁子	(人間文化学部 人間文化学科)
委員	藤原	智子	(生活福祉文化学部 生活福祉文化学科)
事務局	研究・情報推進課		

京都ノートルダム女子大学

2016 (平成 28) 年度 FD 報告書

2017 (平成 29) 年 5 月 30 日発行

編 集 京都ノートルダム女子大学
FD 委員会 (事務局: 研究・情報推進課)

発 行 京都ノートルダム女子大学
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町 1 番地
TEL (075) 781-1173 FAX (075) 706-3707
ホームページ <http://www.notredame.ac.jp>

授業評価アンケート
教育評価アンケート 株式会社 教育ソフトウェア
集計結果表作成

印 刷 株式会社 田中プリント



京都ノートルダム女子大学 FD委員会

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地

TEL 075-781-1173 FAX 075-706-3707

ホームページ <http://www.notredame.ac.jp>